

伊賀市地域共生社会実現に向けたアンケート調査

令和 6 年 12 月

伊賀市

目次

I	調査の概要	1
1.	調査の目的	1
2.	調査の方法	1
3.	配布・回収数	1
4.	報告書の見方(注意事項)	1
5.	設問の構成と意図	2
II	調査結果	4
1.	回答者について	4
2.	福祉サービスについて	7
3.	安心・安全な環境	13
4.	地域のつながり	18
5.	地域活動	24
6.	今後の地域福祉施策	30
III	アンケート調査からみられる課題の検討	32
1.	福祉サービスの課題	32
2.	安心安全な環境における課題	39
3.	地域のつながりにおける課題	43
4.	地域活動についての課題	47
5.	今後の地域福祉政策	53
6.	第4次地域福祉計画の課題整理について	55

I 調査の概要

1. 調査の目的

本市では、第4次地域福祉計画において、「ひとりひとりが支え合い つながりあいながら、いきいきと暮らせるまちづくり」を理念に掲げ、支える・支えられるという関係を超えて、お互いが支え合うことができる地域共生社会の実現をめざし、さまざまな取り組みを行っています。

この調査は、第5次計画の策定にあたり、市民の皆様へ地域福祉についてご意見やご提案をお伺いし、伊賀市の今後の地域福祉の取り組みを検討することを目的として実施したものです。

2. 調査の方法

- ② 調査対象地域 伊賀市全域
- ③ 調査対象者 市内にお住まいの18歳以上の方
- ④ 調査期間 令和6年9月1日～9月30日
- ⑤ 調査方法 郵送によって配布し、調査票またはウェブにて回答・回収

3. 配布・回収数

配布数	有効回収数	有効回収率
合計 3,695	1,383	37.4%
郵送 3,000	1,114	37.1%
うち調査票回答	986	32.9%
うちウェブ回答	128	4.3%
e モニター 695	269	38.7%

4. 報告書の見方(注意事項)

- ① グラフおよび表中のn数(number of case)は、「無回答」や「不明」を除く回答者数を表しています。
- ② 調査結果(グラフおよび表中)の比率は、その設問の回答者数(n 数)を分母として、小数点以下第2位を四捨五入して算出し、小数点以下第1位までを表示しています。したがって、端数処理のため、回答比率の合計は必ずしも100%にならない場合があります。
- ③ 複数回答形式(複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式)の設問については、その設問の回答者数(n 数)を分母として比率を算出しています。したがって、すべての回答比率の合計が100%を超えることがあります。
- ④ 選択肢の語句が長い場合、本文や図表中では省略した表現を用いている場合があります。

5. 設問の構成と意図

本調査では、第4次地域福祉計画の実施状況と課題の整理に活用することを踏まえ、計画に沿った項目立てとすることを検討しました。

現計画は、4つの支え（福祉サービス）と4つの安心（住まい、地域医療、健康づくり、くらし）を重点項目とし、施策体系については6つの充実に対応させた6つの章で構成されています。これらを内容から下記の表のように整理し、調査項目を6つにくくり直しました。

アンケート調査の項目	第4次伊賀市地域福祉計画		
	4つの支え	4つの安心	6つの充実
1 回答者の属性			
2 福祉サービスについて	1 高齢者支援 2 障がい者支援 3 子育て支援 4 生活困窮者支援		6 いきづらさを抱えた人に寄り添う社会づくり
3 安心安全な環境		A 住まい B 地域医療 C 健康づくり D くらし	4 安心と安全のまちづくり
4 地域のつながり			3 つながりあえる地域づくり
5 地域活動			1 みんなでつくる地域コミュニティ 5 これからの人材を育成するしくみづくり
6 今後の地域福祉施策	全体を包含		

6つの項目毎に調査の意図を検討し、それに基づき設問を設定しました。

1 回答者の属性

回答者の性別、年齢、家族構成等の属性情報を得ることで、2以降の設問でクロス集計を行い、属性毎の傾向を把握することを意図しています。

2 福祉サービスについて

福祉サービスの利用状況とサービスの評価をたずね、加えて健康づくりや福祉に関心のあるトピックスを選択してもらうことで、福祉サービスの現状と求められている福祉施策を明らかにすることを意図しています。

3 安心安全な環境

市民が不安に感じていることと、安心な環境をつくるために必要なことをたずねることで、課題と安心安全のために必要とされる施策とその優先順位を知ることを意図しています。

4 地域のつながり

市民の地域のつながりの現状とつながりに対する意識、つながりを広げるために妨げとなっている要因をたずねることで、つながりを強化・拡大し共助を進めるために必要な事項を検討するための情報を得ることを意図しています。

5 地域活動

市民の地域活動への参加状況と、参加を妨げている要因についてたずねることで、地域活動の現状と課題を整理し、活動を活発化させるための施策を検討する材料を得ることを意図しています。

6 今後の地域福祉施策

今後、地域福祉を充実させるために優先的に取り組むべきことについてたずねることで、市民が求める地域福祉政策の優先順位を知ることを目的としています。

Ⅱ 調査結果

1. 回答者について

問1 あなたの性別についてお答えください。(○は一つ)【n=1,372】

性別について、「女性」が 60.6%で最も高く、「男性」が 38.8%、「不明・無回答」が 0.6%で続いています。

男性	 38.8%
女性	 60.6%
不明・無回答	0.6%

問2 あなたの年代についてお答えください。(○は一つ)【n=1,376】

年代について、「70 歳代」が 23.0%で最も高く、「60 歳代」が 21.9%、「50 歳代」が 16.5%で続いています。

18～29 歳	 4.6%
30 歳代	 7.3%
40 歳代	 10.6%
50 歳代	 16.5%
60 歳代	 21.9%
70 歳代	 23.0%
80歳代以上	 16.1%

問3 あなたの職業についてお答えください。(○は一つ)【n=1,377】

職業について、「無職」が30.6%で最も高く、「会社員」が20.9%、「パート・アルバイト」が17.6%で続いています。

会社・団体等の役員	2.2%
会社員	20.9%
自営業	6.7%
公務員・団体職員	6.7%
パート・アルバイト	17.6%
学生	1.2%
専業主婦・主夫	10.6%
無職	30.6%
その他	3.5%

問4 あなたの居住地区についてお答えください。(○は一つ)【n=1,373】

居住地区について、「上野」が45.5%で最も高く、「伊賀」が26.1%、「青山」が10.6%で続いています。

上野	45.5%
伊賀	26.1%
島ヶ原	2.4%
阿山	8.0%
大山田	6.6%
青山	10.6%
不明	0.2%
無回答	0.6%

問5 あなたの居住地区内での通算居住年数についてお答えください。(〇は一つ)【n=1,378】

通算居住年数について、「30 年以上」が 64.5%で最も高く、「20 年以上 30 年未満」が 13.9%、「10 年以上 20 年未満」が 11.4%で続いています。

1 年未満	1.0%
1 年以上 5 年未満	4.9%
5 年以上 10 年未満	4.3%
10 年以上 20 年未満	11.4%
20 年以上 30 年未満	13.9%
30 年以上	64.5%

問6 あなたの世帯構成についてお答えください。(〇は一つ)【n=1,377】

世帯構成について、「2 世代が同居（親と子）」が 41.5%で最も高く、「夫婦のみ」が 27.9%、「3 世代が同居（親と子と孫）」が 14.1%で続いています。

3 世代が同居（親と子と孫）	14.1%
2 世代が同居（親と子）	41.5%
夫婦のみ	27.9%
一人暮らし	12.9%
その他	3.6%

問7 現在の暮らしの状況について、近いものをお答えください。(〇は一つ)【n=1,374】

現在の暮らしの状況について、「ふつう」が 52.5%で最も高く、「やや苦しい」が 23.7%、「ややゆとりがある」が 8.9%で続いています。

ゆとりがある	6.0%
ややゆとりがある	8.9%
ふつう	52.5%
やや苦しい	23.7%
大変苦しい	8.8%

2. 福祉サービスについて

問 8 下記①～④の福祉サービスを利用していますか。「現在利用している」または「以前利用していた」を選んだ方は、右の満足度もお答えください。

問 8-1 サービス利用の有無（○は一つ）※①～④のサービスのいずれも「利用していない」を選んだ方は問 10 へ

福祉サービスの利用の有無について、「現在利用している」では、「①高齢者に関する福祉サービス」の利用が 13.9%と最も高く、次いで、「③児童に関する福祉サービス」(8.1%)、「②障がいのある人に関する福祉サービス」(5.3%)、「④生活に困っている人に関する福祉サービス」(1.1%)と続いています。「以前利用していた」を合わせた利用経験のある方については、「③児童に関する福祉サービス」が 19.5%と最も高く、次いで、「①高齢者に関する福祉サービス」が 19.2%で続いています。

	現在利用している	以前利用していた	利用していない	
1-①高齢者に関する福祉サービス (介護保険に基づくサービス等)	13.9%	5.3%	80.8%	【n=1,080】
1-②障がいのある人に関する福祉サービス	5.3%	1.3%	93.4%	【n=1,003】
1-③児童に関する福祉サービス	8.1%	11.4%	80.4%	【n=996】
1-④生活に困っている人に関する福祉サービス	1.1%	0.8%	98.1%	【n=994】

問 8-2 満足度（〇は一つ）

福祉サービス利用の満足度（「満足している」と「やや満足している」の合計）については、「①高齢者に関する福祉サービス」が 61.8%と最も高く、「④生活に困っている人に関する福祉サービス」（57.9%）、「②障がいのある人に関する福祉サービス」（57.4%）で過半数を超えて高い満足度となっています。一方、「③児童に関する福祉サービス」については、48.1%と過半数を割っています。

①高齢者に関する福祉サービス（介護保険に基づくサービス等）（デイサービス、訪問介護等）【n=199】

満足している	29.1%
やや満足している	32.7%
ふつう	30.7%
あまり満足していない	5.0%
満足していない	2.5%

②障がいのある人に関する福祉サービス（生活介護、身体介護、就労支援等）【n=61】

満足している	21.3%
やや満足している	36.1%
ふつう	24.6%
あまり満足していない	11.5%
満足していない	6.6%

③児童に関する福祉サービス（保育所、放課後等デイサービス等）【n=191】

満足している	23.0%
やや満足している	25.1%
ふつう	35.1%
あまり満足していない	13.1%
満足していない	3.7%

④生活に困っている人に関する福祉サービス（就労支援、生活資金貸し付け等）【n=19】

満足している	26.3%
やや満足している	31.6%
ふつう	26.3%
あまり満足していない	10.5%
満足していない	5.3%

問9 (満足度を選んだ理由) あなたが、問8-2で評価した際の基準となった項目を、下記の福祉サービスごとにお答えください。(〇はいくつでも)

評価した際の基準については、いずれの福祉サービスも「サービスの質」が最も高くなっています。次いで、「①高齢者に関する福祉サービス」「③児童に関する福祉サービス」では「サービスを利用しやすい環境整備(送迎や身近な場所で利用できる等)」が続いています。また、「②障がいのある人に関する福祉サービス」では「利用料金」と「サービスを利用しやすい環境整備(送迎や身近な場所で利用できる等)」が同率で、「④生活に困っている人に関する福祉サービス」では「サービスの量」と「その他」が同率で続いています。

①高齢者に関する福祉サービス(介護保険に基づくサービス等)(デイサービス、訪問介護等)【n=183】

サービスの質	59.6%
サービスの量	25.1%
利用料金	35.0%
サービスを利用しやすい環境整備 (送迎や身近な場所で利用できる等)	48.1%
その他	9.8%

②障がいのある人に関する福祉サービス(生活介護、身体介護、就労支援等)【n=54】

サービスの質	53.7%
サービスの量	31.5%
利用料金	40.7%
サービスを利用しやすい環境整備 (送迎や身近な場所で利用できる等)	40.7%
その他	7.4%

③児童に関する福祉サービス(保育所、放課後等デイサービス等)【n=180】

サービスの質	52.8%
サービスの量	23.9%
利用料金	31.1%
サービスを利用しやすい環境整備 (送迎や身近な場所で利用できる等)	47.8%
その他	11.7%

④生活に困っている人に関する福祉サービス（就労支援、生活資金貸し付け等）【n=16】

サービスの質	56.3%
サービスの量	18.8%
利用料金	12.5%
サービスを利用しやすい環境整備 （送迎や身近な場所で利用できる等）	18.8%
その他	18.8%

問 10 あなたの住んでいる地域の良いところはどこだと思いますか。（○はいくつでも）【n=1,321】

住んでいる地域の良いところについては、「災害が少ない」が 66.2%で最も高く、「自然が豊か（水や空気、星空がきれい）」が 58.2%、「お米やお肉、お酒などおいしいものがたくさんある」が 43.9%で続いています。

災害が少ない	66.2%
自然が豊か（水や空気、星空がきれい）	58.2%
お米やお肉、お酒などおいしいものがたくさんある	43.9%
大阪や名古屋、京都へのアクセスが良い	31.9%
生活に必要なものが近くにある	29.2%
住民同士のつながりが強い	24.5%
忍者や松尾芭蕉など歴史文化が薫る特色がある	21.3%
関西の文化や風土が感じられる	13.4%
その他	3.1%

問 11 あなたの住んでいる地域には、福祉に関わるどのような課題・問題があると思いますか。
 (〇はいくつでも)【n=1,306】

住んでいる地域の福祉に関わる課題・問題については、「高齢者の一人暮らしや高齢者のみの世帯に関する問題」が 56.7%で最も高く、「介護を要する高齢者に関する問題(8050 問題など)」が 32.1%、「道路や公共施設、住居等の整備に関する問題(高齢者・障がい者や子ども連れに配慮されていない など)」が 31.4%で続いています。

高齢者の一人暮らしや高齢者のみの世帯に関する問題	56.7%
介護を要する高齢者に関する問題(8050問題など)	32.1%
道路や公共施設、住居等の整備に関する問題(高齢者・障がい者や子ども連れに配慮されていない など)	31.4%
住民同士のつながりが弱い	16.2%
生活困窮に関する問題	10.5%
ニートや不登校、引きこもり、非行等の青少年に関する問題	9.7%
障がい者(児)に関する問題	8.9%
ひとり親家庭に関する問題	8.7%
子育て家庭に関する問題(ヤングケアラー問題など)	7.8%
子どもを狙った犯罪など、地域の防犯に関する問題	6.4%
その他	5.9%
わからない	10.2%
特になし	8.9%

問 12 福祉サービスに関する情報はどこから入手していますか。(〇はいくつでも)【n=1,338】

福祉サービスに関する情報の入手先については、「市の広報」が 68.2%で最も高く、「テレビ・ラジオ・新聞」が 21.9%、「市のホームページ」が 15.6%が続いています。

市の広報	68.2%
テレビ・ラジオ・新聞	21.9%
市のホームページ	15.6%
インターネット	15.0%
住民自治協議会や自治会 (町内会・区等)	12.7%
介護支援専門員（ケアマネジャー）	11.8%
市役所や支所の窓口	11.1%
社会福祉協議会の広報誌や窓口	10.8%
医療機関（医師・看護師等）や 薬局（薬剤師）	9.4%
地域包括支援センター	9.2%
福祉サービスの事業所または その職員	7.4%
民生委員・児童委員	7.2%
障がい者相談支援センター	1.3%
NPO やその他の民間団体	0.7%
保健所	0.3%
その他	2.2%
特になし	11.1%

3. 安心・安全な環境

問 13 地域で安心して暮らすために必要なことは何だと思いますか。次の中から 3 つ選択してください。【n=1,255】

地域で安心して暮らすために必要なことについては、「医療サービスが充実していること」が 64.2%で最も高く、「公共交通が整備されており、高齢者や障がい者の移動が容易にできること」が 47.0%、「災害対策が充実していること」が 46.4%で続いています。

医療サービスが充実していること	64.2%
公共交通が整備されており、高齢者や障がい者の移動が容易にできること	47.0%
災害対策が充実していること	46.4%
高齢者や障がい者、子育て支援などの福祉サービスが整っていること	35.5%
治安が良く、住民の防犯意識が高いこと	30.8%
地域での人のつながりがあり、地域活動も活発で助け合いの習慣が根付いていること	23.7%
安心していつまでも暮らせるように、バリアフリーなどの住環境が整い、住まいに対する支援が充実していること	18.1%
健康づくりの活動が活発であり、健診や運動の施設が充実していること	8.0%
図書館や文化ホール等の文化施設が整備され、市民の文化活動に対する支援が充実していること	6.7%

問 14 あなたは、毎日の暮らしの中で、次のどのようなことに悩みや不安を感じますか。
(○はいくつでも)【n=1,201】

毎日の暮らしの中で悩みや不安を感じることは、「災害時の備えに関すること(自分や家族が万が一の時にひとりでは避難できない等)」が 32.1%で最も高く、「住環境に関すること(老朽化している、階段の昇り降りが困難等)」が 27.8%、「家族の介護、障がいのある家族に関すること(介護する人が疲れきっている、自分の老後に障がいのある子どもの面倒を誰がみるのか等)」が 22.9%で続いています。

災害時の備えに関すること(自分や家族が万が一の時にひとりでは避難できない等)	32.1%
住環境に関すること(老朽化している、階段の昇り降りが困難等)	27.8%
家族の介護、障がいのある家族に関すること(介護する人が疲れきっている、自分の老後に障がいのある子どもの面倒を誰がみるのか等)	22.9%
経済的なこと(失業して収入がない、認知症等で財産管理ができない等)	20.1%
身の回りのこと(体が思うように動かず、家事や外出がひとりではできない等)	16.4%
治安に関すること(近所に空き巣が入った、ひったくりがあった等)	14.3%
近所づきあいに関すること(つきあいがない、近所とのトラブルがある等)	11.2%
子育てに関すること(子どもの発育、いじめや不登校の問題等)	9.7%
その他	6.3%
特に感じていない	18.4%

問 15 あなたは普段、どのような健康づくりの習慣を持っていますか。(〇はいくつでも)
【n=1,306】

健康づくりの習慣については、「定期的な健康診断」が 54.9%で最も高く、「バランスの取れた食事」が 49.9%、「十分な睡眠」が 46.6%が続いています。

定期的な健康診断	54.9%
バランスの取れた食事	49.9%
十分な睡眠	46.6%
定期的な運動（ウォーキング、ジョギング、ジム通いなど）	34.9%
ストレス管理（瞑想、趣味の時間など）	26.1%
禁煙	21.5%
節酒	14.5%
健康づくりイベントへの参加	4.7%
その他	5.1%

問 16 あなたが新型コロナウイルス感染症拡大前（2020年2月以前）に関わっていた地域活動等のなかでいまだに再開できていないことはありますか。（〇はいくつでも）【n=1,099】

新型コロナウイルス感染症拡大前に関わっていた地域活動等のなかでいまだに再開できていない活動については、「地域活動等をしていない」が 48.2%で最も高く、「再開できていない地域活動等はない」が 18.3%、「その他の地域活動等」が 14.7%で続いています。

再開できていない地域活動等はない	18.3%
その他の地域活動等	14.7%
地域での集い（サロン等）	6.4%
趣味関係のグループ活動	5.3%
老人クラブ活動	5.3%
スポーツや運動のグループ活動	4.8%
収入のある仕事	2.5%
ボランティアのグループ活動	1.5%
学習・教養サークル活動	0.8%
地域活動等をしていない	48.2%

- 問 17 新型コロナウイルス感染症拡大前（2020年2月以前）と比較して、現在のあなたの日常生活はどのように変化しましたか。（それぞれ○は一つ）
- ①【n=1,147】、②【n=1,175】、③【n=1,236】、④【n=1,212】、⑤【n=1,235】、⑥【n=1,222】、⑦【n=1,171】、⑧【n=1,140】、⑨【n=1,117】

新型コロナウイルス感染症拡大前と比較して、現在の日常生活にどのような変化があったかについては、いずれの項目も「変わらない・該当なし」が最も高くなっています。一方、「とても増えた」と「やや増えた」を合わせた『増えた』の回答割合が高い項目は、「②デジタル機器を使う時間」が38.4%と最も高くなっています。また、「やや減った」と「とても減った」を合わせた『減った』の回答割合が高い項目は、「④友人・知人等への訪問や来訪」が43.0%と最も高く、「⑦趣味等のサークル活動への参加頻度・回数」が24.9%、「⑥運動や体を動かす時間」が22.6%で続いています。

	とても増えた	やや増えた	変わらない・ 該当なし	やや減った	とても減った
①収入のある仕事の頻度・回数	1.1%	2.8%	77.8%	9.2%	9.1%
②デジタル機器（スマートフォンやタブレット、PC等）を使う時間	10.5%	27.9%	57.7%	2.2%	1.7%
③買い物の頻度・回数	1.7%	11.1%	67.7%	14.1%	5.4%
④友人・知人等への訪問や来訪	1.2%	5.6%	50.2%	27.2%	15.8%
⑤通院の頻度・回数	2.5%	12.5%	77.0%	6.1%	1.9%
⑥運動や体を動かす時間	1.9%	8.3%	67.2%	17.4%	5.2%
⑦趣味等のサークル活動への参加頻度・回数	0.7%	5.0%	69.4%	14.9%	10.0%
⑧ボランティア活動への参加頻度・回数	0.7%	2.3%	81.9%	7.5%	7.5%
⑨福祉サービス（保育や介護サービス等）の利用頻度・回数	1.8%	3.1%	89.3%	2.1%	3.6%

4. 地域のつながり

問 18 あなたは、ご近所の人とどのようなつきあいをされていますか。(〇は一つ)【n=1,294】

近所の人とのつきあいについては、「特に親しい人はなく、外で会えば世間話をする程度のつきあいをしている」が 42.3%で最も高く、「あいさつはするが、話をするほどのつきあいはしていない」が 26.7%、「互いに相談したり、生活面で協力しあっている」が 25.7%で続いています。

互いに相談したり、生活面で協力しあっている	25.7%
特に親しい人はなく、外で会えば世間話をする程度のつきあいをしている	42.3%
あいさつはするが、話をするほどのつきあいはしていない	26.7%
ほとんどあいさつもしない	3.2%
近所に誰がいるかも知らない	2.1%

問 19 問 18 で「ほとんどあいさつもしない」または「近所に誰がいるかも知らない」と回答された人におたずねします。ほとんどつきあいをされていない理由は何ですか。(〇はいくつでも)【n=65】

近所の人とほとんどつきあいをしていない理由については、「仕事などで家をあけることが多く、知り合う機会がない」が 43.1%で最も高く、「近所つきあいは面倒だと思うこともあるので、避けている」が 33.8%、「ふだん留守の家が多いなど、近所づきあいがほとんどない」が 29.2%で続いています。

仕事などで家をあけることが多く、知り合う機会がない	43.1%
近所つきあいは面倒だと思うこともあるので、避けている	33.8%
ふだん留守の家が多いなど、近所づきあいがほとんどない	29.2%
最近引越しして来た	9.2%
近所つきあいはしたいが、つい消極的になってしまう	9.2%
その他	20.0%

問 20 あなたにとって「地域」とは、どの範囲を思い浮かべますか。次の中から最もあてはまるものを選択してください。（○は一つ）【n=1,260】

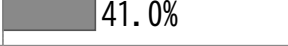
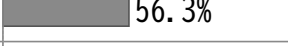
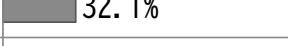
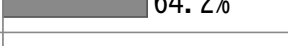
思い浮かべる「地域」の範囲については、「自治協・自治会区」が 46.2%で最も高く、「となり近所」が 27.7%、「伊賀市全体」が 10.7%が続いています。

となり近所	27.7%
自治協・自治会区	46.2%
小学校区	9.0%
中学校区	2.5%
伊賀市全体	10.7%
伊賀市及び周辺市町	3.9%

問 21 あなたやご家族が、高齢や病気、もしくは子育てなどで日常生活が不自由になったとき、地域で『手助けをしてほしい』と思うことがありますか。また、今後、ご近所とのおつきあいの中で、『手助けできる』と思うことがありますか。『手助けをしてほしい』と思うこと、『手助けできる』と思うこと、それぞれの欄に○をつけてください。（それぞれひとつだけ○）

（１）「手助けをしてほしい」

高齢や病気、もしくは子育てなどで日常生活が不自由になったとき、地域で『手助けをしてほしい』と思うことについては、「⑧災害時の手助け」が 87.2%で最も高く、次いで、「①安否確認の声かけ」（79.1%）、「⑦高齢者などの見守り」（64.2%）と続いています。

	思う	思わない	
(1)①安否確認の声かけ	 79.1% 20.9%		【n=1,144】
(1)②話し相手	 56.8% 43.2%		【n=1,095】
(1)③買い物の手伝い	 55.8% 44.2%		【n=1,109】
(1)④家事の手伝い	 41.0% 59.0%		【n=1,077】
(1)⑤通院など外出の手伝い	 56.3% 43.7%		【n=1,112】
(1)⑥短時間の子どもの預かり	 32.1% 67.9%		【n=983】
(1)⑦高齢者などの見守り	 64.2% 35.8%		【n=1,078】
(1)⑧災害時の手助け	 87.2% 12.8%		【n=1,143】

(2)「手助けできる」

今後、近所とのつきあいの中で、『手助けできる』と思うことについては、「①安否確認の声かけ」が85.3%で最も高く、次いで、「⑧災害時の手助け」(77.8%)、「②話し相手」(68.7%)と続いています。

	思う	思わない	
(2)①安否確認の声かけ	85.3%	14.7%	【n=1,121】
(2)②話し相手	68.7%	31.3%	【n=1,094】
(2)③買い物の手伝い	59.2%	40.8%	【n=1,054】
(2)④家事の手伝い	33.8%	66.2%	【n=1,034】
(2)⑤通院など外出の手伝い	42.3%	57.7%	【n=1,039】
(2)⑥短時間の子どもの預かり	39.5%	60.5%	【n=1,028】
(2)⑦高齢者などの見守り	56.0%	44.0%	【n=1,047】
(2)⑧災害時の手助け	77.8%	22.2%	【n=1,072】

問 22 あなたは、地域の助け合いが必要だと思いますか。(○は一つ)【n=1,271】

地域の助け合いが必要だと思うかどうかについては、「必要だと思う」が 78.9%で最も高く、「わからない」が 17.1%、「必要だと思わない」が 4.0%で続いています。

必要だと思う	78.9%
必要だと思わない	4.0%
わからない	17.1%

問 23 問 22 で「必要だと思わない」と回答された人におたずねします。地域の助け合いは必要ないと思う理由は何ですか。(○はいくつでも)【n=50】

地域の助け合いは必要ないと思う理由については、「あまり他人とのかかわりを持ちたくないから」が 48.0%で最も高く、「住民相互の協力活動にはあまり期待できないから」が 40.0%、「個人の生活は一人ひとりの責任・自覚の問題であるから」と「地域社会の問題は、市役所などが全面的に対応するものであるから」が同率（34.0%）で続いています。

あまり他人とのかかわりを持ちたくないから	48.0%
住民相互の協力活動にはあまり期待できないから	40.0%
個人の生活は一人ひとりの責任・自覚の問題であるから	34.0%
地域社会の問題は、市役所などが全面的に対応するものであるから	34.0%
友人、知人との結びつきがあれば十分であるから	26.0%
その他	10.0%
わからない	6.0%

問 24 あなたが住んでいる地域のことで「取り組むべき」と感じている問題がありますか。
(○はいくつでも)【n=1,189】

住んでいる地域のことで「取り組むべき」と感じている問題については、「一人暮らしの高齢者や障がいのある人のこと」が 42.3%で最も高く、「防災・防犯への取り組みのこと」が 34.7%、「自治協や自治会の役員のなり手がいないこと」が 33.5%で続いています。

一人暮らしの高齢者や障がいのある人のこと	42.3%
防災・防犯への取り組みのこと	34.7%
自治協や自治会の役員のなり手がいないこと	33.5%
介護が必要な高齢者がいる世帯のこと	31.8%
住民同士のまとまりや助け合いが乏しいこと	26.5%
くらしや福祉について、相談できる人がいないこと	23.0%
地域の人と交流する場がないこと	14.0%
障がいのある人がいる世帯のこと	13.4%
ひとり親（母子・父子）家庭のこと	9.9%
子どもの非行やいじめのこと	7.1%
引きこもりのこと	6.0%
その他	5.7%

問 25 あなたは、これからも現在住んでいる地域に住み続けたいと思いますか。(○は一つ)
【n=1,298】

「住み続けたい」が 45.4%で最も高く、「どちらかといえば住み続けたい」が 38.3%、「どちらかといえば住み続けたくない」が 13.8%で続いています。

住み続けたい	45.4%
どちらかといえば住み続けたい	38.3%
どちらかといえば住み続けたくない	13.8%
住み続けたくない	2.5%

5. 地域活動

問 26 あなたは、自治会等の地域活動（次問の項目に該当する活動）や地域の行事に参加されていますか。（○は一つ）【n=1,289】

自治会等の地域活動や地域の行事への参加状況については、「機会があれば参加・協力している」が40.7%で最も高く、「進んで参加・協力している」（12.6%）を合わせると過半数の53.3%が『参加・協力している』となっています。一方、「関心がないので参加していない」は19.3%で2番目に高く、「関心はあるが、参加していない」（16.9%）を合わせると36.2%が『参加していない』となっています。

進んで参加・協力している	12.6%
機会があれば参加・協力している	40.7%
参加することはあるが、協力することはあまりない	10.6%
関心はあるが、参加していない	16.9%
関心がないので参加していない	19.3%

問 27 問 26 で「進んで参加・協力している」「機会があれば参加・協力している」「参加することはあるが、協力することはあまりない」「関心はあるが、参加していない」を選んだ方におたずねします。それはどのような活動ですか。（〇はいくつでも）【n=926】

参加している活動、関心がある活動については、「自治協や自治会の活動」が 64.5%で最も高く、「老人クラブ活動」が 23.3%、「文化・スポーツ活動」が 17.6%が続いています。

自治協や自治会の活動	64.5%
老人クラブ活動	23.3%
文化・スポーツ活動	17.6%
環境保護活動	14.5%
公民館活動	11.0%
子ども会・育成会活動	8.9%
P T A 活動	8.7%
高齢者支援活動	8.3%
女性団体活動（女性部など）	6.7%
消防団活動	3.2%
子育て支援活動	2.9%
障がい者支援活動	2.2%
その他	3.9%

問 28 問 26 で「関心はあるが、参加していない」を選んだ方、どのような要件が整えば参加したいと思いますか。(〇はいくつでも)【n=194】

どのような要件が整えば参加したいと思うかについては、「時間や内容が合えば参加したい」が 43.8%で最も高く、「集団ではなく、自分のペースでできるなら参加したい」が 23.2%、「家族や友人と一緒に参加したい」が 18.6%が続いています。

時間や内容が合えば参加したい	43.8%
集団ではなく、自分のペースでできるなら参加したい	23.2%
家族や友人と一緒に参加したい	18.6%
活動の情報やきっかけがあれば参加したい	18.0%
人に誘われたら参加したい	15.5%
自分の仕事や特技を活かせるなら参加したい	12.9%
交通費や必要経費が出るなら参加したい	5.2%
インターネットでなら参加したい	3.6%
特に要件はなく参加したい	2.1%
その他	17.0%

問 29 あなたは、まちづくり、スポーツ等のNPO活動、一人暮らしのお年寄りの見守りや子育て支援等のボランティア活動（次問の項目に該当する活動）に参加したり、協力したりしたことがありますか。（○は一つ）【n=1,247】

まちづくり、スポーツ等のNPO活動、一人暮らしのお年寄りの見守りや子育て支援等のボランティア活動への参加・協力状況については、「まったく参加したことはなく、今後も参加したいとは思わない」が42.3%で最も高く、「以前に参加・協力したことがあるが、現在参加していない」が25.3%、「これまで参加・協力したことはないが、今後参加するなど関わりをもちたい」が21.2%で続いています。

現在参加したり、協力している	11.2%
これまで参加・協力したことはないが、今後参加するなど関わりをもちたい	21.2%
以前に参加・協力したことがあるが、現在参加していない	25.3%
まったく参加したことはなく、今後も参加したいとは思わない	42.3%

問 30 問 29 で「現在参加したり、協力している」と回答された人におたずねします。あなたは、どのようなボランティア活動に参加・協力していますか。（○はいくつでも）【n=138】

参加・協力しているボランティア活動については、「スポーツ・文化・レクリエーション」が37.7%で最も高く、「まちづくりに関する活動」が33.3%、「ひとり暮らしなどの高齢者の支援」が28.3%で続いています。

スポーツ・文化・レクリエーション	37.7%
まちづくりに関する活動	33.3%
ひとり暮らしなどの高齢者の支援	28.3%
自然や環境保護に関する活動	18.1%
健康づくりや栄養・食生活に関する活動	10.9%
生涯学習に関する活動	10.9%
子育ての支援や子どもの世話	9.4%
青少年の健全な育成に関する活動	9.4%
障がいのある人の支援	8.7%
国際交流に関する活動	4.3%
その他	9.4%

問 31 問 29 で「これまで参加・協力したことはないが、今後参加するなど関わりをもちたい」と答えた方におたずねします。あなたは今後どのような活動に参加したいと思いますか。
(〇はいくつでも)【n=195】

「これまで参加・協力したことはないが、今後参加するなど関わりをもちたい」と回答した方が今後参加したい活動については、「ひとり暮らしなどの高齢者の支援」が 50.8%で最も高く、「自然や環境保護に関する活動」が 25.6%、「子育ての支援や子どもの世話」が 23.6%で続いています。

ひとり暮らしなどの高齢者の支援	50.8%
自然や環境保護に関する活動	25.6%
子育ての支援や子どもの世話	23.6%
スポーツ・文化・レクリエーション	23.1%
健康づくりや栄養・食生活に関する活動	22.6%
まちづくりに関する活動	17.9%
国際交流に関する活動	11.3%
障がいのある人の支援	9.7%
生涯学習に関する活動	7.7%
青少年の健全な育成に関する活動	3.1%
その他	0.5%

問 32 問 29 で「以前に参加・協力したことがあるが、現在参加していない」または「まったく参加したことはなく、今後も参加したいとは思わない」と回答した人におたずねします。どのような要件が整えば参加したいと思いますか。(〇はいくつでも)【n=746】

どのような要件が整えば参加したいと思うかについては、「時間や内容が合えば参加したい」が 43.8%で最も高く、「集団ではなく、自分のペースでできるなら参加したい」が 27.6%、「その他」が 17.3%で続いています。

時間や内容が合えば参加したい	43.8%
集団ではなく、自分のペースでできるなら参加したい	27.6%
家族や友人と一緒に参加したい	15.4%
自分の仕事や特技を活かせるなら参加したい	14.2%
活動の情報やきっかけがあれば参加したい	12.6%
人に誘われたら参加したい	9.8%
交通費や必要経費が出るなら参加したい	9.0%
インターネットでなら参加したい	7.6%
特に要件はなく参加したい	2.1%
その他	17.3%

6. 今後の地域福祉施策

問 33 今後、地域福祉を充実させるために、優先的に取り組むべきものについて、次の中から選んでください。（〇は3つまで）【n=1,210】

今後、地域福祉を充実させるために、優先的に取り組むべきものについては、「地域における災害時の体制整備」が 48.0%で最も高く、「福祉サービスの質の向上」が 31.8%、「福祉サービス（種類）の充実」が 31.2%が続いています。

地域における災害時の体制整備	48.0%
福祉サービスの質の向上	31.8%
福祉サービス（種類）の充実	31.2%
福祉に関する相談体制の充実	26.4%
地域福祉に関連する人材の育成	19.6%
福祉教育の充実	13.8%
情報提供体制の整備	13.7%
地域活動への参加の促進	12.6%
世代間交流の促進	12.6%
関係機関の連携の推進	8.6%
福祉に関連する事業者の育成	7.4%
ボランティアとの協働	5.5%
福祉事業者との協働	4.8%
NPOとの協働	2.0%
権利擁護事業の推進	1.1%
その他	3.4%

問 34 地域共生社会を実現するために市はどのようなことを実施する必要があると思いますか。

回答者 357 人

項目	意見数	比率
高齢者・移動支援	82	23.0%
地域活動支援	48	13.4%
福祉・医療サービス	38	10.6%
子育て支援	34	9.5%
情報発信・周知	30	8.4%
多様性・共生	30	8.4%
交流・つながり支援	29	8.1%
経済的支援	27	7.6%
相談・支援体制	15	4.2%
人材育成・確保	15	4.2%
産業・観光	13	3.6%
防災・防犯	10	2.8%
人口減少	10	2.8%
その他・特になし	76	21.3%

問 35 お住まいの地域で気になることや、市政全般に関するご意見等があればお書きください。

回答者 415 人

項目	意見数	比率
地域活動・コミュニティ	113	27.2%
高齢者支援	103	24.8%
公共交通・道路整備	83	20.0%
医療・福祉	57	13.7%
人口・過疎	51	12.3%
子育て・教育	46	11.1%
行政サービス	44	10.6%
防災・安全	27	6.5%
施設・インフラ	26	6.3%
産業・観光	24	5.8%
環境	20	4.8%
税金・財政	19	4.6%
意見なし・その他	79	19.0%

Ⅲ アンケート調査からみられる課題の検討

アンケート調査結果を属性（問 2 年齢、問 4 居住年数、問 7 経済状況、問 6 家族構成）でクロス集計をすることにより、第 4 次地域福祉計画における課題を検討しました。なお、分析を単純化するために、問 2 年齢、問 4 居住年数、問 7 経済状況は選択肢を集約しています。

1. 福祉サービスの課題

①福祉サービスの利用状況

福祉サービスの充実度を知るためには利用の傾向を把握することが重要です。P5 で全体の利用率を示していますが、高齢者福祉、障がい者福祉、児童福祉、生活困窮の福祉サービスの利用率はいずれも 2 割以下です。

それぞれの年代の傾向を把握するため、「現在利用している」「以前利用していた」を選択した人のみに絞り込み、年齢（4 区分）でのクロス集計を行いました。

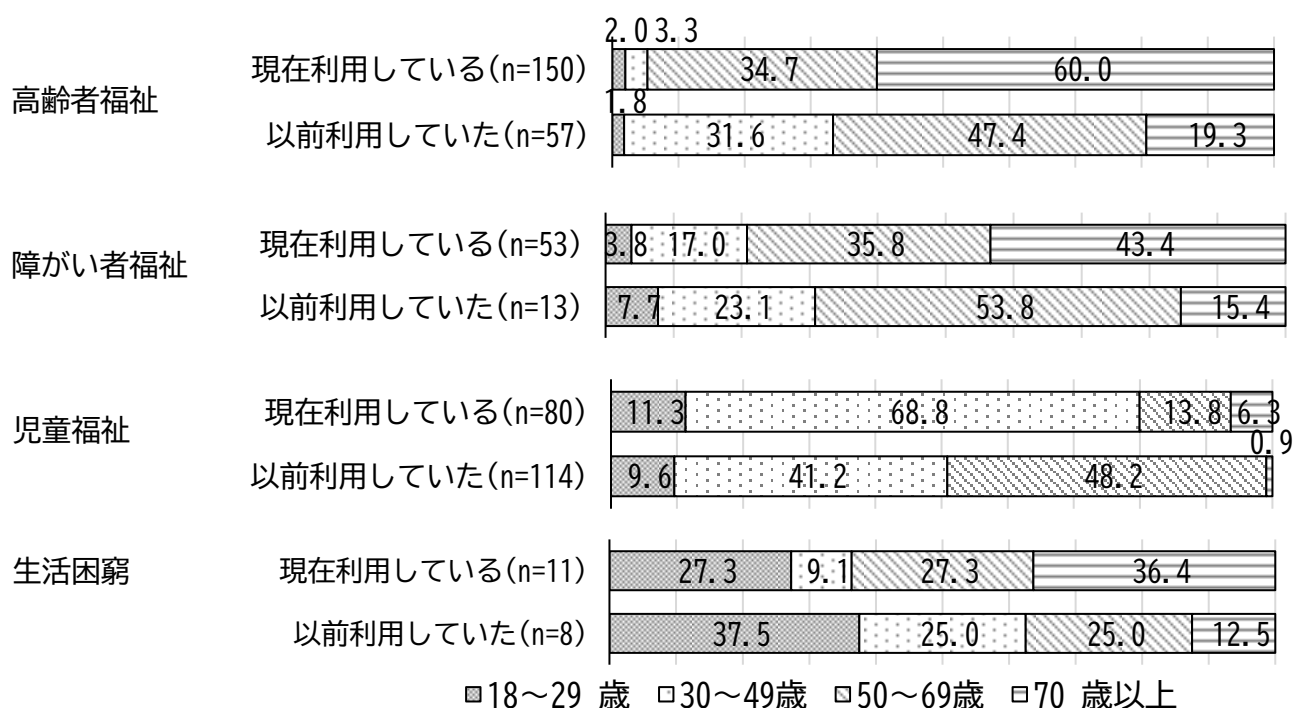
高齢者福祉を「現在利用している」人は 70 歳以上が半数以上を占めています。しかし、「以前利用していた」人を見ると、50 歳～69 歳が 47.4%、30～49 歳が 31.6%であり、介護者として携わっている世代は幅広くいることに留意が必要です。

障がい者福祉は「現在利用している」人は 70 歳以上が 43.4%、50～69 歳 35.8%で、合わせると 8 割近くの人が 50 歳以上となっています。

児童福祉は「現在利用している」人の約 8 割が 49 歳以下ですが、「以前利用していた」人の約半数は 50 歳以上であり、利用者の世代が交代していることがうかがえます。

生活困窮は、「現在利用している」人では 70 歳以上が 36.4%で最も多くなっていますが、29 歳以下と 50～69 歳の人々が 27.3%で同率で続いています。「以前利用していた」人では 18～29 歳の人々が 37.5%で最も多くなっています。このように、他の福祉サービスに比べると若い世代での利用が多くとなっています。ただし、サンプル数が少ないため、解釈には注意が必要です。

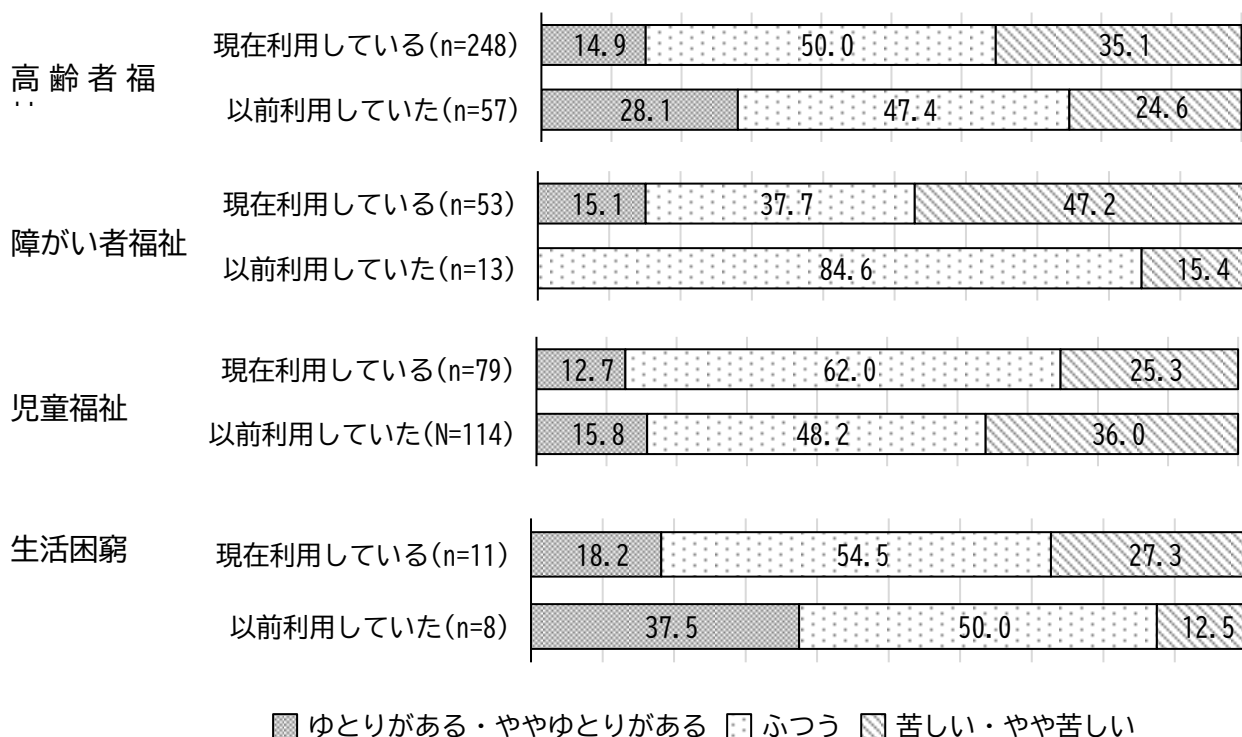
【年齢 4 区分】



次に、福祉サービスの利用者の経済状況を把握するため、経済的状況をたずねる問 7（5 区分）とクロス集計をおこないました。

「やや苦しい」、「苦しい」と答えた人の比率は、高齢者福祉、障がい者福祉、生活困窮では現在利用している人よりも以前利用していた人の方が低くなっており、利用していた時期より経済状況が改善していると考えられます。一方、児童福祉の利用者では、「やや苦しい」、「苦しい」と答えた人の比率は、現在利用している人よりも以前利用していた人の方が 10.7 ポイント高くなっており、子育てが終わり、サービスの利用が終了した後も、経済状況が改善していない人が一定数いると考えられます。

【経済状態 3 区分】



②福祉サービスの満足度

福祉サービスの満足度を向上するためには、利用者が何に満足し何に不満か知ることが重要です。そこで、問8-2のサービスの満足度と問9①の評価項目をクロス集計することで、満足度の高い項目、低い項目を分析しました。

「満足している・やや満足している」と答えた人は、いずれのサービスでも「サービスの質」と答えた人の比率が最も高くなっています。「サービスを利用しやすい環境整備」は高齢者福祉と児童福祉では「サービスの質」に次いで高くなっていますが、障がい福祉と経済困窮では相対的に低くなっています。

障がい者福祉サービスは、「サービスの質」に対する満足度が最も高く、「満足している」「やや満足している」と答えた人の81.3%が「サービスの質」を評価しています。しかし、他の項目では満足度が相対的に低い傾向が見られます。

また、いずれのサービスでも「あまり満足していない」「満足していない」と答えた人は「利用料金」と答えた人の比率が高くなっています。

ただし、「障がい者福祉」「経済困窮」については、回答者数が極めて少ないため統計的な誤差が大きい可能性があります。これらの結果の解釈には慎重な判断が必要です。

%		問9①					
		N	サービスの質	サービスの量	利用料金	サービスを利用しやすい	その他
高齢者福祉	全体	183	59.6	25.1	35.0	48.1	9.8
	満足している・やや満足してる	121	69.4	26.4	33.1	51.2	13.2
	ふつう	47	40.4	25.5	38.3	44.7	2.1
	あまり満足していない・満足していない	15	40.0	13.3	40.0	33.3	6.7
障がい者福祉	全体	27	59.3	29.6	37.0	25.9	7.4
	満足している・やや満足している	16	81.3	25.0	37.5	31.3	-
	ふつう	8	37.5	50.0	25.0	12.5	25.0
	あまり満足していない・満足していない	3	-	-	66.7	33.3	-
児童福祉	全体	178	52.8	23.6	30.9	47.2	11.8
	満足している・やや満足している	86	65.1	27.9	27.9	57.0	8.1
	ふつう	62	45.2	16.1	30.6	43.5	9.7
	あまり満足していない・満足していない	30	33.3	26.7	40.0	26.7	26.7
経済困窮	全体	16	56.3	18.8	12.5	18.8	18.8
	満足している・やや満足している	10	70.0	30.0	10.0	10.0	10.0
	ふつう	5	40.0	-	20.0	40.0	20.0
	あまり満足していない・満足していない	1	-	-	-	-	100.0

③福祉課題のクロス集計

問 11 は福祉課題について聞いていますが、その回答を 4 つの属性（年齢、居住年数、経済的状況、世帯構成）でクロス集計を行いました。

共通課題に関して、全体では「道路や公共施設、住居等の整備に関する問題」をあげた人の比率が最も高くなっており、年齢区分別では 19～29 歳と 50～69 歳の人の比率が高くなっています。その要因として、19～29 歳の場合、実家から独立したり子育てを始める年齢であり、その際に住環境や公共施設の問題に直面していることが想定されます。また、50～69 歳の場合は、子どもが独立したり、親の介護に直面する年代であり、住み替えやバリアフリーの整備など、住環境に関心が高まっていることが想定されます。

高齢者に関する課題では、全体では「高齢者に一人暮らしや高齢者のみの世帯に関する問題」の比率が半数を超えており、世代や世帯構成等を超えて関心が高まっていることがうかがえます。そのなかで、居住年数が短い人の方の比率が比較的低くなっています。これは、居住年数が長い人と短い人とで居住エリアや、地域のつながりが異なるために、高齢者の一人暮らしの問題に触れることが相対的に低いことが考えられます。

%		問11	共通課題				高齢者	障がい者	児童福祉			生活困窮
		N	住民 同士の つながり が弱い	道路や公共施設、 問題（高齢者・障がい者や子ども連れに 配慮されていないなど）	子どもを犯った犯罪など、 関する問題	世帯に 関する 問題	介護を要する高齢者に関する問題 （8050問題など）	障がい者（児）に関する問題	子育て家庭に関する問題 （ヤングケアラー問題など）	ひとり親家庭に関する問題	青少年に関する問題 （引きこもり、非行等の	生活困窮に関する問題
全体		1300	16.1	31.5	6.5	56.8	32.2	8.8	7.6	8.5	9.6	10.5
年齢4区 分クロス の項目	18～29 歳	60	8.3	38.3	13.3	55.0	30.0	8.3	23.3	11.7	6.7	15.0
	30～49歳	233	12.4	32.2	12.9	48.9	31.3	12.0	15.5	10.3	14.6	11.6
	50～69歳	512	15.8	35.7	6.4	61.7	38.3	10.7	7.6	9.8	11.1	12.9
	70歳以上	495	19.0	25.9	2.6	55.8	26.5	5.5	2.0	6.1	6.1	6.9
職業4区 分	会社役員・会社員等	482	14.5	34.9	8.1	57.7	38.0	10.6	11.0	12.7	12.2	11.2
	パート・学生・主婦(夫)	387	14.0	33.6	8.0	58.1	32.3	12.1	9.0	9.0	10.9	12.4
	無職	388	19.3	25.3	3.4	55.4	25.8	3.6	2.3	3.6	5.9	8.0
	その他	44	25.0	34.1	2.3	47.7	25.0	9.1	6.8	4.5	4.5	9.1
居住年数 3区分	10年未満	132	16.7	33.3	12.1	43.9	28.8	8.3	17.4	12.1	12.1	12.1
	30年未満	334	17.1	33.2	7.2	51.8	29.3	10.2	10.2	8.4	11.1	15.6
	30年以上	837	15.8	30.5	5.3	61.1	33.9	8.5	5.1	8.1	8.7	8.2
経済的状 況	ゆとりがある・ややゆとりがある	194	12.9	30.9	5.2	60.3	29.9	6.7	8.8	6.7	9.8	4.6
	ふつう	682	15.7	29.0	7.8	55.6	32.4	8.7	7.3	9.2	9.5	4.5
	苦しい・やや苦しい	424	18.4	35.8	5.0	57.3	32.8	10.1	7.5	8.5	9.9	22.4
世帯構成	3世代が同居（親と子と孫）	182	9.9	40.1	9.9	58.8	40.1	10.4	11.0	7.1	17.0	8.8
	2世代が同居（親と子）	542	13.7	31.7	9.2	53.9	33.6	11.3	10.3	8.9	10.0	10.9
	夫婦のみ	362	23.2	30.9	3.0	61.6	30.9	6.6	4.4	8.3	8.3	8.0
	一人暮らし	168	16.1	23.2	2.4	53.0	20.8	3.6	3.6	8.9	4.2	12.5
	その他	48	16.7	29.2	2.1	60.4	35.4	12.5	2.1	10.4	8.3	22.9

問 11 の福祉課題に関して、問 18 のご近所付き合いを問う設問でクロス集計をおこないました。「高齢者の一人暮らしや高齢者のみの世代に関する問題」に関して、ご近所付き合いが密な人ほど選択した人の比率が高くなっており、地域との関係が薄いほど、地域課題に関する情報に疎くなることがうかがえます。一方、「ニートや不登校、引きこもり、非行等の青少年に関する問題」や「生活困窮に関する問題」の比率は、ご近所付き合いが薄いほど比率が高まっており、このような問題に直面している、もしくは関係していることが孤立を生んでいる可能性があります。

%		問11	共通課題			高齢者		障がい者	児童福祉			生活困窮
		n	住民同士のつながりが弱い	道路や公共施設、 （高齢者・障がい者や子ども連れの整備に関する問題など）	子どもを狙った犯罪など、地域の防犯に関する問題	高齢者の一人暮らしや高齢者のみの世帯に関する問題	介護を要する高齢者に関する問題 （8050問題など）	障がい者（児）に関する問題	子育て家庭に関する問題 （ヤングケアラー問題など）	ひとり親家庭に関する問題	ニートや不登校、引きこもり、非行等の青少年に関する問題	生活困窮に関する問題
全体		1300	16.1	31.5	6.5	56.8	32.2	8.8	7.6	8.5	9.6	10.5
問18	互いに相談したり、生活面で協力しあっている	313	10.5	37.4	5.4	64.2	37.4	8.0	7.3	8.0	9.9	8.9
	特に親しい人はなく、外で会えば世間話をする程度のつきあいをしている	530	15.8	30.9	6.0	59.2	29.6	7.7	6.6	7.4	8.3	9.4
	あいさつはするが、話をするほどのつきあいはしていない	337	19.9	29.1	8.3	51.3	32.9	11.0	9.5	10.7	10.4	11.9
	ほとんどあいさつもしない	41	22.0	34.1	4.9	48.8	31.7	12.2	14.6	12.2	12.2	12.2
	近所に誰がいるかも知らない	27	22.2	25.9	3.7	33.3	25.9	7.4	11.1	11.1	18.5	25.9

④福祉サービスの情報源のクロス集計

問12の福祉サービスに関する情報の取得先を、年齢4区分でクロス集計をおこないました。「市の広報」と答えた人の比率が全体では最も高くなっています。年代別でもいずれの年代も「市の広報」が最も多くなっていますが、年齢が高くなるほどその比率は高くなっており、18～29歳と70歳以上では37.2ポイントも差があります。一方、「市のホームページ」と「インターネット」は若い世代ほど高くなっており、世代間で大きな差があります。また、18～29歳は「市のホームページ」の21.7%より「インターネット」の33.3%の方が、11.6ポイントも高くなっており、インターネットを情報収集に幅広く活用していることがうかがえます。このような世代間の傾向を踏まえ、情報提供の手段についてはターゲット世代ごとの特性に応じた工夫が求められます。高齢者に対しては引き続き「市の広報」を重視しつつ、若い世代には「インターネット」やSNSなど、より親和性の高いデジタル媒体の活用を検討する必要があります。

%		問12									
		n	市の広報	市のホームページ	市役所や支所の窓口	地域包括支援センター	介護支援専門員（ケアマネジャー）	保健所	福祉サービスの事業所またはその職員	障がい者相談支援センター	民生委員・児童委員
全体		1331	68.1	15.6	11.0	9.3	11.9	0.3	7.5	1.3	7.3
年齢4区分 クロスの 項目	18～29 歳	60	35.0	21.7	6.7	3.3	3.3	1.7	5.0	-	1.7
	30～49歳	235	62.1	20.9	6.8	3.8	2.1	0.4	4.7	1.3	1.3
	50～69歳	514	70.4	17.7	14.6	8.9	11.7	0.2	7.0	2.3	4.3
	70歳以上	522	72.2	10.3	10.0	12.8	17.6	0.2	9.6	0.4	13.6

%		問12（続き）								
		n	医療機関（医師・看護師等）や薬局（薬剤師）	NPO やその他の民間団体	社会福祉協議会の広報誌や窓口	住民自治協議会や自治会（町内会・区等）	テレビ・ラジオ・新聞	インターネット	その他	特にない
全体		1331	9.5	0.7	10.8	12.8	21.9	15.0	2.3	11.0
年齢4区分 クロスの 項目	18～29 歳	60	8.3	1.7	3.3	1.7	20.0	33.3	1.7	31.7
	30～49歳	235	6.4	0.9	3.8	6.0	12.3	23.0	3.0	20.0
	50～69歳	514	9.5	0.4	10.7	12.6	19.3	18.3	1.9	8.6
	70歳以上	522	10.9	0.8	14.9	17.2	28.9	6.1	2.3	7.1

また、福祉サービスの利用経験による情報源の変化を探るために、問 8-1①～④の福祉サービスの利用状況と問 12 のクロス集計をおこないました。

高齢者及び障がい者福祉において、情報源として「介護支援専門員（ケアマネジャー）」と答えた人の比率は、「現在の利用している」と答えた人（現利用者）ではそれぞれ 59.7%、34.7%と高い比率になっています。それに対して、「以前利用していた」と答えた人（旧利用者）はそれぞれ 24.1%、30.8%と、現利用者より低くなっており、利用が終了すると、一部の利用者はケアマネジャーとの関係が希薄になることがうかがえます。

一方、情報源が「住民自治会協議会や自治会」と答えた人の比率は、現利用者それぞれ 7.2%、2.0%と低いのにに対して、旧利用者は 18.5%、23.1%と高くなっており、福祉サービスの利用を終了した人が自治会や自治会協議会を情報源としていることがうかがえます。児童福祉でも同様の傾向があり、自治会が福祉に関する相談の一次窓口として機能している可能性があります。

		問12（抜粋）												
		n	市の広報	市のホームページ	市役所や支所の窓口	地域包括支援センター	介護支援専門員（ケアマネジャー）	保健所	福祉サービス事業所またはその職員	障がい者相談支援センター	民生委員・児童委員	医療機関（医師・看護師等）や薬局（薬剤師）	社会福祉協議会の広報誌や窓口	住民自治協議会や自治会（町内会・区等）
全体		1338	66.3	17.5	11.1	9.3	11.9	0.3	7.5	1.3	7.2	9.4	10.8	12.7
高齢者福祉	現在利用している	139	54.7	13.7	16.5	22.3	59.7	-	20.1	-	10.1	10.8	10.1	7.2
	以前利用していた	54	63.0	24.1	11.1	11.1	24.1	1.9	14.8	3.7	9.3	7.4	11.1	18.5
	利用していない	854	68.4	17.7	11.2	7.6	4.7	0.4	5.0	1.3	4.9	10.1	10.7	12.5
障がい者福祉	現在利用している	49	59.2	16.3	22.4	8.2	34.7	-	42.9	6.1	4.1	6.1	10.2	2.0
	以前利用していた	13	61.5	23.1	23.1	15.4	30.8	-	23.1	7.7	7.7	15.4	7.7	23.1
	利用していない	915	67.2	18.0	11.5	8.5	8.6	0.4	5.4	1.0	5.8	9.9	10.6	12.3
児童福祉	現在利用している	76	68.4	25.0	10.5	6.6	5.3	1.3	9.2	2.6	1.3	7.9	5.3	3.9
	以前利用していた	113	74.3	31.0	13.3	2.7	8.8	0.9	6.2	1.8	3.5	8.8	10.6	10.6
	利用していない	784	65.9	15.7	12.6	9.6	10.3	0.3	6.9	1.3	6.4	10.2	11.2	12.9
経済困窮	現在利用している	10	40.0	10.0	30.0	-	20.0	-	10.0	10.0	10.0	-	10.0	-
	以前利用していた	8	62.5	37.5	50.0	-	-	-	-	-	-	25.0	12.5	-
	利用していない	954	66.8	18.0	12.1	8.8	10.3	0.4	6.9	1.3	5.9	10.0	10.5	12.2

2. 安心安全な環境における課題

①安心で暮らすために必要なこと（問13）の属性情報クロス集計

安心・安全に関するニーズの属性による傾向の違いを把握するため、年齢、居住年数、経済状況、世帯構成によりクロス集計をおこないました。

年齢別の傾向では、高齢者ほど公共交通の整備や地域のつながりを重視している一方で、若い世代ほど治安や災害対策、医療サービスの充実への関心が高くなっています。

居住年数別の傾向では、居住年数が長い人の方が地域のつながりや公共交通の整備に関心が高く、居住年数が短い人ほど治安や防犯を重視しています。このことから、地域課題への意識は居住年数に応じて深まることがうかがえます。

経済状況別の傾向では、経済的に苦しい人ほど住環境や福祉サービスへの期待が高く、経済的にゆとりのある人ほど、健康づくりや文化活動への関心が高くなっています。

世帯構成別の傾向では、一人暮らし世帯が地域とのつながりや住環境の整備を重視し、複数世代が同居する世帯では、福祉サービスが整っていることを重視しています。

%		問13									
		n	災害対策が充実していること	安んじて暮らす環境が整っていること、住まいに対する支援が充実していること	医療サービスが充実していること	地域での人のつながりがあり、地域活動も活発で助け合いの習慣が根付いていること	高齢者や障がい者、子育て支援などの福祉サービスが整っていること	健康づくりの活動が活発であり、健診や運動の施設が充実していること	治安が良く、住民の防犯意識が高いこと	公共交通が整備されており、高齢者や障がい者の移動が容易にできること	図書館や文化ホール等の文化施設が整備され、市民の文化活動に対する支援が充実していること
全体		1254	46.3	18.1	64.3	23.7	35.4	8.0	30.7	47.0	6.7
年齢4区分クロス項目	18～29 歳	58	60.3	19.0	74.1	6.9	43.1	6.9	39.7	31.0	6.9
	30～49歳	225	51.1	16.4	61.3	14.7	41.8	5.8	37.3	38.2	10.2
	50～69歳	488	45.3	16.4	67.6	21.1	35.2	9.4	29.7	51.6	7.2
	70歳以上	477	43.2	20.3	60.8	32.7	31.2	7.8	27.5	49.1	4.6
居住年数3区分	10年未満	123	50.4	20.3	61.8	14.6	39.8	7.3	40.7	37.4	7.3
	30年未満	326	49.7	18.1	62.9	16.6	36.8	6.7	34.4	42.3	9.8
	30年以上	802	44.3	17.7	65.2	28.1	34.2	8.6	27.7	50.6	5.4
経済的状況	ゆとりがある・ややゆとりがある	180	46.7	16.1	63.9	21.1	35.6	10.0	32.2	43.9	8.9
	ふつう	670	46.7	16.3	63.4	25.1	34.2	8.7	30.0	48.5	6.6
	苦しい・やや苦しい	397	45.3	22.4	66.0	22.4	37.0	5.8	31.2	45.8	6.0
世帯構成	3世代が同居（親と子と孫）	172	51.7	15.7	67.4	22.1	40.1	9.3	29.1	43.0	9.9
	2世代が同居（親と子）	524	46.4	19.3	65.5	19.7	38.5	8.0	33.2	43.7	7.1
	夫婦のみ	353	46.2	16.4	64.3	26.1	30.0	8.2	26.9	53.5	6.2
	一人暮らし	154	34.4	20.8	55.2	35.1	33.1	7.8	34.4	47.4	5.2
	その他	47	66.0	19.1	68.1	19.1	29.8	2.1	25.5	48.9	-

②暮らしの中での悩みや不安（問 14）の属性情報クロス集計

暮らしの中での悩みや不安を聞く設問（問 14）により、支援への潜在的なニーズを把握することができるため、世代、居住年数、経済状況、年齢でクロス集計をおこないました。

年代別の傾向を見ると、18～29 歳の若年層では「子育てに関すること」の比率が高く、加えて「経済的なこと」に対する不安も高くなっています。30～49 歳の中年層では、「家族の介護や障がいのある家族」に関する不安が高く、また子育てや経済的な不安も引き続き高くなっています。50 歳以上の高齢層になると、「住環境に関すること」や「身の回りのこと」が年齢が上がるに従い高くなっています。

居住年数においても同様の傾向があることに加え、居住年数が短い方が「近所づきあいに関すること」が高くなっています。

経済状況別の傾向を見ると、経済的に苦しいと感じている人ほど「経済的なこと」に加え、「身の回りのこと」「住環境に関すること」「近所づきあいに関すること」への不安が高まっています。

世帯構成での傾向をみると、夫婦二人暮らしや一人暮らしの方は「身の回りのこと」や「住環境に関すること」への不安が高く、一方多世代同居の人は「家族の介護」や「子育て」に関する悩みが顕著に見られます。

これらの結果を踏まえ、住民のニーズに応じたきめ細やかな施策が求められます。

%		問14										
		n	身の回りのこと （外出がひとりで はできない等）	子育てに関する こと（子どもの 登校の問題等）	家族の介護 （障がいのある 人がいること、 面倒をみるの か等）	経済的なこと （失業して収入 がない、認知 症等で財産管 理ができない 等）	住環境に関 する（老朽化 している、階 段の昇り降り が困難等）	治安に関 する（近所に 空き巣が入 った、ひった くりがあつた 等）	災害時の 備え（避難 できない等）	近所づき あい（つき あいがいい こと、悪い こと）	その他	特に 感じ てい ない
全体		1201	16.5	9.7	22.8	20.1	27.8	14.3	32.1	11.2	6.3	18.4
年齢4区分ク ロスの項目	18～29 歳	51	7.8	27.5	27.5	37.3	21.6	15.7	29.4	7.8	11.8	11.8
	30～49歳	202	4.0	39.1	23.8	26.2	18.3	12.4	34.7	16.3	4.5	9.9
	50～69歳	453	11.0	4.4	31.6	20.3	33.3	17.4	32.7	13.5	7.7	13.7
	70歳以上	489	27.6	0.6	13.9	15.3	27.4	12.3	31.1	7.4	5.3	27.2
居住年数3区分	10年未満	115	7.0	35.7	16.5	24.3	13.9	13.0	32.2	16.5	5.2	15.7
	30年未満	306	9.5	14.4	26.8	26.5	22.5	14.1	28.1	13.7	7.5	16.7
	30年以上	777	20.7	4.0	22.3	17.0	31.9	14.5	33.6	9.5	6.0	19.6
経済的状況	ゆとりがある・ややゆとりがある	164	7.9	9.8	19.5	2.4	17.1	13.4	31.7	7.9	9.1	24.4
	ふつう	620	16.0	9.5	22.9	11.1	25.2	13.7	33.1	11.6	6.0	22.3
	苦しい・やや苦しい	409	20.5	9.8	23.7	40.3	36.4	15.9	30.3	12.2	5.9	10.0
世帯構成	3世代が同居（親と子と孫）	163	9.8	14.7	31.3	20.9	26.4	15.3	27.0	9.8	5.5	16.6
	2世代が同居（親と子）	492	12.4	16.9	30.7	20.3	24.6	13.4	33.9	12.2	6.3	15.2
	夫婦のみ	337	19.6	1.5	14.8	14.2	31.5	15.7	32.3	11.0	6.8	23.1
	一人暮らし	161	26.1	1.2	8.1	27.3	31.1	13.0	28.6	11.8	6.8	21.1
	その他	43	27.9	4.7	18.6	32.6	30.2	16.3	44.2	4.7	4.7	14.0

暮らしの中での悩みや不安と地域との関係との関連を検証するために、問 18 とのクロス集計をおこないました。「子育てに関すること」、「経済的なこと」、「近所づきあいに関すること」のいずれも近所づきあいが希薄になるほど比率が高くなっています。

%	問14										
	N	身の回りのこと （体が思うように動かず、 家事や外出がひとりではできない等）	子育てに関すること （子どもの発育、いじめや 不登校の問題等）	家族の介護障がいのある家族に関する こと （介護する人が疲れきっている、自分の 老後に 障がいのある子どもが面を誰がみるのか等）	経済的なこと （失業して収入がない、認知症等で財産 管理ができない等）	住環境に関する こと （老朽化している、階段の昇り降りが困 難等）	治安に関する こと （近所に空き巣が入った、ひったくりが あった等）	災害時の備えに 関すること （自分や家族が万が一の時に ひとりでは避難できない等）	近所づきあいに 関すること （つきあいが ない、近所との トラブルがある 等）	その他	特に感じて いない
全体	1201	16.5	9.7	22.8	20.1	27.8	14.3	32.1	11.2	6.3	18.4
互いに相談したり、生活面で協力しあっている	298	18.1	7.0	22.1	14.1	30.2	16.1	37.6	4.0	5.7	19.5
特に親しい人はなく、外で会えば世間話をする程度のつきあいをしている	494	16.4	8.1	23.3	20.0	27.7	14.2	31.2	10.5	6.1	19.6
あいさつはするが、話をするほどのつきあいはしていない	315	13.7	14.3	22.2	24.8	27.6	14.0	30.8	16.5	6.0	14.9
ほとんどあいさつもしない	37	18.9	5.4	21.6	29.7	13.5	13.5	21.6	24.3	8.1	13.5
近所に誰がいるかも知らない	23	17.4	17.4	34.8	39.1	21.7	13.0	26.1	21.7	13.0	17.4

③健康づくり習慣（問 15）とクロス集計

健康づくり習慣の傾向を探るために、問 15 と属性情報のクロス集計をおこないました。

年齢別の傾向は、「バランスの取れた食事」や「定期的な健康診断」は年齢が高いほどその比率は顕著に高くなっています。「定期的な運動」は、30～49 歳及び 70 歳以上の比率が低くなっていますが、前者は子育て等で多忙になるため、後者が高齢により運動の機会が減少するためと考えられ、これらの層をターゲットにした支援策を講じることが必要です。

一方、「ストレス管理（瞑想、趣味の時間など）」を選択した人の比率は、年齢が上がるほど低下しています。また、居住年数が長くなるほど、経済的状況苦しい人ほど低下し、世帯構成では多世代同居の人よりも夫婦のみ及び一人暮らしの方が低くなっています。

%		問15									
		合計	定期的な運動 （ジョギング、ジム通いなど）	バランスの取れた食事	十分な睡眠	（瞑想、趣味の時間など） ストレス管理	定期的な健康診断	禁煙	節酒	健康づくりイベントへの参加	その他
全体		1306	34.9	50.0	46.7	26.2	54.8	21.4	14.5	4.7	5.1
年齢4区分 クロス項目	18～29 歳	58	39.7	32.8	43.1	36.2	29.3	22.4	13.8	-	1.7
	30～49歳	227	30.0	44.1	47.6	37.9	42.3	19.4	14.5	0.9	2.6
	50～69歳	501	38.7	51.7	40.7	26.7	55.3	22.0	14.2	3.6	3.8
	70歳以上	513	32.7	53.0	52.8	19.3	62.6	21.6	14.8	8.2	7.8
職業4区分	会社役員・会社員等	471	35.9	43.7	40.6	29.5	51.0	22.9	14.2	1.9	3.0
	パート・学生・主婦(夫)	383	33.9	56.7	47.0	30.0	54.3	19.6	14.1	7.0	3.7
	無職	402	35.1	51.0	53.2	17.7	59.2	20.6	15.2	6.2	7.7
	その他	44	31.8	47.7	50.0	31.8	59.1	29.5	15.9	2.3	11.4
居住年数4区分	10年未満	124	33.9	54.0	51.6	37.9	46.0	22.6	19.4	2.4	1.6
	30年未満	334	34.7	47.9	43.1	28.7	44.3	22.8	13.8	2.4	4.5
	30年以上	844	35.1	50.4	47.5	23.3	60.3	20.6	14.0	6.0	5.7
経済的状況	ゆとりがある・ややゆとりがある	190	47.4	55.8	49.5	29.5	53.2	21.1	16.8	5.8	5.3
	ふつう	686	34.7	51.3	47.7	27.3	55.5	20.7	13.0	5.0	3.6
	苦しい・やや苦しい	421	29.7	44.7	43.7	23.0	54.6	22.8	15.9	4.0	7.4
世帯構成	3世代が同居（親と子と孫）	181	31.5	49.2	43.6	29.8	59.7	19.9	11.6	3.9	2.2
	2世代が同居（親と子）	538	30.9	46.7	47.0	28.3	50.6	20.6	14.9	3.0	4.5
	夫婦のみ	369	41.2	56.4	49.3	22.5	59.9	23.6	14.4	7.0	6.0
	一人暮らし	165	39.4	44.8	42.4	21.8	51.5	24.2	17.6	7.9	6.1
	その他	48	27.1	58.3	47.9	27.1	58.3	8.3	12.5	-	12.5

3. 地域のつながりにおける課題

①ご近所付き合い（問 18）と属性情報クロス集計

地域の安心・安全を維持・強化するためには、住民同士のつながりが重要になります。ご近所付き合いについての質問（問 18）を年齢、居住年数、経済状況、世帯構成でクロス集計し、回答の 5 段階を 1～5 点に配点し、平均点を算出しました。

全体では平均が 3.86 点ですが、年齢別に見ると、18～29 歳が 3.13 点に対して 70 歳以上は 4.13 と年齢が上がる毎に点数が上がっており、若い世代と高齢者世代とで近所づきあいの仕方に大きな差があることがうかがえます。

居住年数で見ても、10 年未満の 3.22 点に対して 30 年以上が 4.06 点と居住年数が長い方が緊密な付き合いをしています。

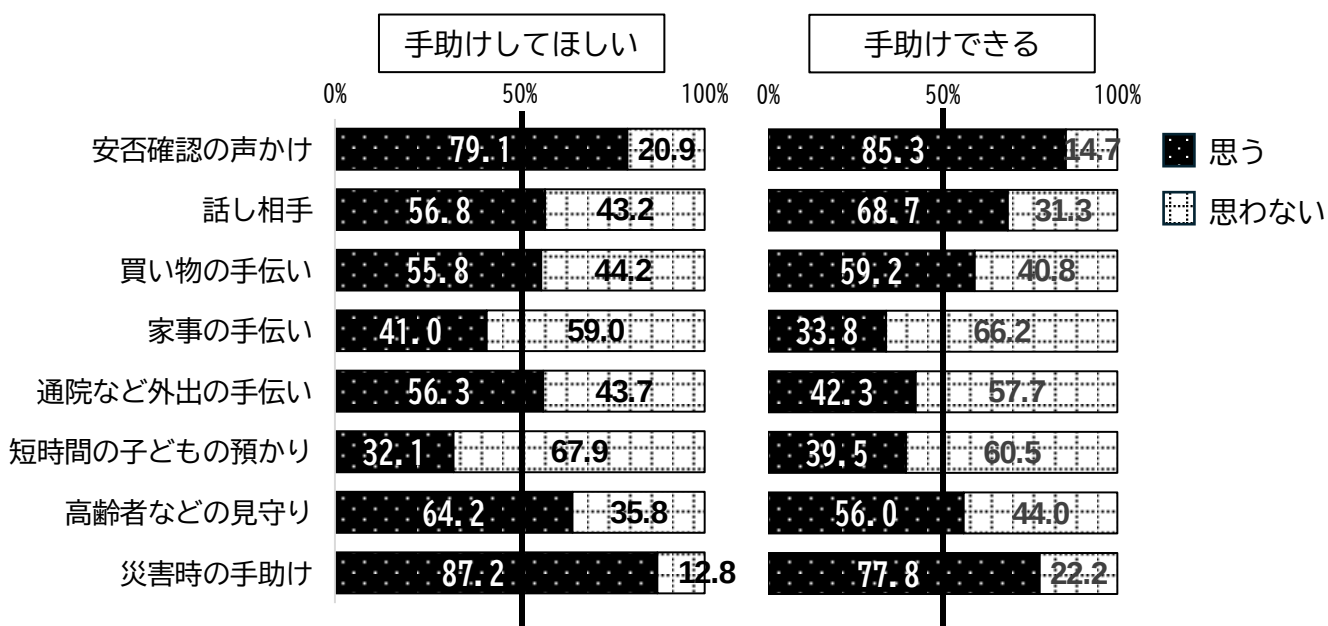
経済的状況では、大きな差は見られません。

世帯構成では、3 世代同居が 4.02 点で最も高く、2 世代同居が 3.76 点で最も低くなっています。

%		問18						
		N	あ互 つに いて い相 談し たり、 生活 面で 協力し	る間 話を する しう い程 度の なく、 外で 会え てば い世	つあ きい さは する が、 話を する ほど の	ほと んど あい さも しな い	近所 に誰 が いる かも 知ら ない	均所 点に 誰が いる かも 知ら ない 15 点で 平均 近
全体		1294	25.7	42.3	26.7	3.2	2.1	3.86
年齢4区分ク スの項目	18～29 歳	58	10.3	15.5	60.3	5.2	8.6	3.13
	30～49歳	224	12.1	36.6	41.5	5.4	4.5	3.47
	50～69歳	499	23.2	46.1	26.3	3.2	1.2	3.87
	70歳以上	507	36.1	44.2	16.8	1.8	1.2	4.13
居住年数4区分	10年未満	123	8.9	29.3	45.5	7.3	8.9	3.22
	30年未満	329	15.5	39.2	38.0	4.6	2.7	3.60
	30年以上	838	32.2	45.5	19.5	2.0	0.8	4.06
経済的状況	ゆとりがある・ややゆとりがある	190	31.6	37.9	22.6	4.2	3.7	3.90
	ふつう	674	25.5	43.9	27.2	2.2	1.2	3.90
	苦しい・やや苦しい	421	23.0	41.8	28.0	4.3	2.9	3.78
世帯構成	3世代が同居（親と子と孫）	182	33.0	37.4	28.0	1.6	-	4.02
	2世代が同居（親と子）	534	19.9	43.8	30.0	4.5	1.9	3.76
	夫婦のみ	362	28.5	45.9	22.1	1.4	2.2	3.97
	一人暮らし	165	27.9	37.6	26.1	4.2	4.2	3.81
	その他	46	37.0	32.6	21.7	4.3	4.3	3.93

②手助けできること（問 21）の内容分析

日常生活での助け合いは、手助けをしてほしいと思う意思と、手助けできるという意思が合わさって実現します。アンケート調査では8つの項目について、それぞれの意思をたずねています。



この結果を、整理すると下記の通りとなります。

手助けできる			
手助けしてほしい		思う > 思わない	思う < 思わない
	思う > 思わない	安否確認の声かけ★ 話し相手★ 買い物の手伝い★ 高齢者などの見守り 災害時の手助け A	通院など外出の手伝い B
	思う < 思わない	C	D 家事の手伝い 短時間の子どもの預かり★

★手助けしてほしい人の比率より手助けできる人の比率が大きい（供給が需要より大きく実現性が高い）項目

Aの領域にある5つの項目は広く助け合いが実現する可能性があります。特に、★の付いた3つの項目は、手助けできる人の比率が手助けしてほしい人の比率より高いためさらに実現性が高くなります。

Bの領域は、手助けする人が手助けしてほしい人より少ないため、実現性が低くなります。「通院などの外出の手伝い」は、疾病の度合いや事故への対応などが実現を妨げる要因と考えられます。

Dの領域は、手助けする人も手助けしたい人も少数となるため、マッチングが重要になります。

このように、手助けする側とされる側の気持ちが合う項目については実現に向けた支援が必要です。

③地域で取り組むべきと感じる課題（問 24）のクロス集計

問 24 地域で取り組むべきと感じる課題を、年齢、居住年数、経済的状态、世帯構成でクロス集計をおこないました。

年代別の傾向を見ると、「一人暮らしの高齢者や障がいのある人のこと」を選択した人の比率は年齢が上であるほど高くなっていますが、「介護が必要な高齢者がいる世帯のこと」を選択した人の比率は18～29歳でも50歳以上と同程度であり、ヤングケアラーの問題を含め、高齢者の問題に若い世代も関心をもっていることがうかがえます。一方、「子どもの非行やいじめのこと」を選んだ人の比率は、50歳未満と50歳以上で大きな差がでており、子育てが身近でない50歳以上の人の関心は薄くなっていることがうかがえます。

居住年数でみると、「自治協や自治会の役員のなり手がいないこと」を選んだ人の比率は居住年数が長い人ほど比率が高くなっており、居住年数が短い人ほど自治協や自治会とは関わりが薄いことがうかがえます。

経済的状态別の傾向を見ると、「暮らしや、相談できる人がいないこと」を選択した人の比率が、生活が苦しい人ほど高くなっています。

世帯構成別の傾向を見ると、一人暮らしの人は「一人暮らしの高齢者や障がいがある人のこと」を選択した人の比率が半数を超えており、一人暮らしの生活に不安を感じている人が多いことがうかがえます。また「暮らしや福祉について、相談できる人がいないこと」を選択した人も他の世帯構成に比べ高くなっており、不安を感じる中で、身近に相談できる人がいない人も一定数いることがわかります。

%		問24												
		n	暮らしや福祉について、相談できる人がいないこと	住民同士のまとまりや助け合いが乏しいこと	自治協や自治会の役員のなり手がいないこと	介護が必要な高齢者がいる世帯のこと	障がいのある人がいる世帯のこと	ひとり親（母子・父子）家庭のこと	一人暮らしの高齢者や障がいのある人のこと	地域の人が交流する場がないこと	子どもの非行やいじめのこと	防災・防犯への取り組みのこと	引きこもりのこと	その他
全体		1182	23.2	26.5	33.2	31.7	13.3	9.7	42.4	14.0	7.1	34.8	5.9	5.8
年齢4区分 クロスの項目	18～29 歳	53	20.8	20.8	15.1	32.1	17.0	5.7	32.1	11.3	22.6	34.0	5.7	7.5
	30～49歳	207	19.8	22.7	30.9	24.2	14.0	16.4	36.2	14.5	16.9	33.8	7.7	8.7
	50～69歳	480	25.4	26.5	37.7	33.1	14.4	9.6	42.3	11.7	5.2	37.9	6.0	4.4
	70歳以上	442	22.6	29.0	31.7	33.7	11.3	7.2	46.6	16.5	2.7	31.9	5.0	5.7
居住年数 3区分	10年未満	112	21.4	22.3	17.0	29.5	13.4	15.2	36.6	14.3	17.9	36.6	7.1	6.3
	30年未満	302	23.2	25.8	25.8	30.1	17.2	10.9	36.8	10.6	9.6	33.1	5.3	7.9
	30年以上	772	23.3	27.3	38.7	32.9	11.9	8.7	45.5	15.2	4.5	35.1	6.1	4.8
経済的状況	ゆとりがある・ややゆとりがある	177	16.4	24.3	35.6	25.4	9.0	9.6	39.5	14.1	7.3	32.8	8.5	5.6
	ふつう	614	21.3	26.7	34.0	33.4	12.9	9.0	43.8	12.9	7.7	34.9	5.0	6.2
	苦しい・やや苦しい	389	28.5	27.0	31.9	32.4	16.2	11.6	41.1	15.2	6.2	35.0	6.4	5.1
世帯構成	3世代が同居（親と子と孫）	170	17.6	24.1	40.6	28.8	14.7	11.8	41.8	15.9	8.8	32.9	8.2	7.6
	2世代が同居（親と子）	503	24.3	22.7	33.2	33.6	14.9	11.7	39.6	12.9	9.5	35.2	5.8	5.6
	夫婦のみ	328	22.3	35.4	33.2	33.2	10.4	5.2	40.5	14.6	3.7	37.2	5.5	4.6
	一人暮らし	143	28.7	23.8	28.0	25.9	12.6	11.9	55.9	14.0	4.2	29.4	5.6	7.0
	その他	39	15.4	23.1	28.2	33.3	17.9	7.7	51.3	10.3	5.1	35.9	5.1	2.6

次に、地域とのつながりの強弱による地域課題の捉え方の違いを把握するために、問 24 の地域で取り組むべきと感じる課題と問 18 の近所づきあいとのクロス集計をおこないました。

地域のつながりが強い人ほど、「自治協や自治会の役員のなり手がいないこと」を選択した人の比率が高くなっていることに加え、「一人暮らしの高齢者や障がいのある人のこと」も高くなっており、地域との関係性が強い人ほど、自治会の活動や一人暮らしの高齢者の問題を地域の課題として捉えている人が多くなることがうかがえます。

一方、「くらしや福祉について、相談できる人がいないこと」を選択した人の比率は、地域とのつながりが弱い人ほど高くなっており、地域との関係性が薄いことからくる不安がうかがえます。

%		問24												
		n	くらしや福祉について、相談できる人がいないこと	住民同士のまとまりや助け合いが乏しいこと	自治協や自治会の役員のなり手がいないこと	介護が必要な高齢者がいる世帯のこと	障がいのある人がいる世帯のこと	ひとり親（母子・父子）家庭のこと	一人暮らしの高齢者や障がいのある人のこと	地域の人が 交流する場がないこと	子どもの非行やいじめのこと	防災・防犯への取り組みのこと	引きこもりのこと	その他
問18	全体	1155	23.0	26.4	33.7	31.9	13.1	10.0	42.2	13.9	7.0	34.8	5.6	5.8
	互いに相談したり、生活面で協力しあっている	299	15.4	19.7	39.1	36.1	11.7	10.0	52.2	15.4	5.4	36.5	6.7	3.3
	特に親しい人はなく、外で会えば世間話をする程度のつきあいをしている	488	20.9	30.3	35.5	31.8	11.9	9.2	42.4	13.7	5.7	37.1	4.7	5.9
	あいさつはするが、話をするほどのつきあいはしていない	309	31.7	27.5	27.2	29.1	15.5	10.7	34.3	13.9	9.4	29.8	5.2	6.8
	ほとんどあいさつもしない	35	31.4	22.9	28.6	28.6	17.1	11.4	31.4	5.7	14.3	37.1	8.6	14.3
	近所に誰がいるかも知らない	24	37.5	20.8	20.8	20.8	16.7	12.5	29.2	8.3	12.5	29.2	12.5	8.3

4. 地域活動についての課題

①地域活動の参加（問 26）の属性情報クロス集計

地域活動の参加の傾向を詳細に分析するため、年齢、居住年数、経済的状況、家族構成で属性でクロス集計をおこないました。また、参加状況を定量化するため、「関心がないので参加しない」を1点、「進んで参加・協力している」を5点とする5段階で採点し、平均点を算出しました。

年齢別の傾向は、年齢が上がるほど点数は上がりますが、70歳以上は50～69歳よりも低くなっています。これは高齢のため参加を控える人がでてくるためと考えられます。

居住年数では年数が長いほど参加度は上がっています。

経済的状況では、「ゆとりがある・ややゆとりがある」と「ふつう」は変わりませんが、「苦しい・やや苦しい」を選んだ方は参加度が下がっています。

世帯構成別に見ると、3世帯同居が最も高く、夫婦のみが続ぎ、一人暮らしが最も低くなっています。

%		問26						
		n	進んで参加・協力している	機会があれば参加・協力している	参加することはあるが、協力することはあまりない	関心はあるが、参加していない	関心がないので参加していない	採点結果
全体		1282	12.6	40.6	10.5	16.9	19.4	3.10
年齢4区分クソスの項目	18～29 歳	59	1.7	25.4	10.2	23.7	39.0	2.27
	30～49歳	229	6.6	34.9	12.2	18.8	27.5	2.74
	50～69歳	501	13.6	46.7	10.6	11.4	17.8	3.27
	70歳以上	493	15.6	38.7	9.7	20.9	15.0	3.19
居住年数3区分	10年未満	125	5.6	29.6	11.2	22.4	31.2	2.56
	30年未満	331	7.3	38.1	12.7	15.7	26.3	2.85
	30年以上	829	15.7	43.4	9.5	16.5	14.8	3.28
経済的状況	ゆとりがある・ややゆとりがある	190	18.9	35.8	13.2	11.6	20.5	3.21
	ふつう	671	13.1	44.0	10.4	16.1	16.4	3.21
	苦しい	420	9.0	37.4	9.5	20.7	23.3	2.88
世帯構成	3世代が同居（親と子と孫）	183	15.3	47.5	10.9	12.6	13.7	3.38
	2世代が同居（親と子）	535	11.2	38.1	11.8	17.6	21.3	3.00
	夫婦のみ	361	12.7	47.4	9.1	15.5	15.2	3.27
	一人暮らし	157	10.8	28.7	11.5	23.6	25.5	2.76
	その他	48	20.8	31.3	4.2	14.6	29.2	3.00

地域活動への参加度は、住民の地域のつながりの強さに影響を受けていることが推測されます。そこで、ご近所付き合いとのクロス集計をおこないました。

「互いに相談したり、生活面で協力し合っている」と答えた人の採点結果は 3.81 点に対して、「ほとんどあいさつもしない」が 1.46 点で最も低く大きな差がありました。

ご近所との付き合いで「お互いに相談したり、生活面で協力している」と答えた人は、地域活動には 28.4%の人が「進んで参加・協力している」と答えており、「機会があれば参加・協力している」を加えると、約 8 割の人が参加・協力をしており、地域活動を支えていることがうかがえます。

一方、「ほとんどあいさつもしない」「近所に誰が来るかも知らない」と答えた人の 8 割以上が地域活動に参加しておらず、「あいさつはするが、話をするほどのつきあいはしていない」という人の約半数も参加していません。

このように、地域活動を活性化するためには、住民の地域とのつながりを強化することが必要です。

%	問26						
	n	て進 いで 参加 ・ 協力 し	機 会 が あ い れ ば 参 加 ・	あ が 参 加 す る こ と は あ る	し 関 心 は あ る が 、 参 加	し 関 心 が な い の で 参 加	採 点 結 果
全体	1282	12.6	40.6	10.5	16.9	19.4	3.10
互いに相談したり、生活面で協力し あっている	324	28.4	48.1	5.9	10.8	6.8	3.81
特に親しい人はなく、外で会えば世 間話をする程度のつきあいをしてい る	532	9.6	48.1	12.0	17.3	13.0	3.24
あいさつはするが、話をするほどの つきあいはしていない	335	4.5	31.0	12.5	21.8	30.1	2.58
ほとんどあいさつもしない	41	2.4	2.4	12.2	4.9	78.0	1.46
近所に誰がいるかも知らない	23	-	4.3	4.3	30.4	60.9	1.52

②参加している（したい）地域活動（問 27）の属性クロス

参加している地域活動について、年齢、居住年数、経済的状況、世帯構成でクロス集計をおこないました。

年齢別の傾向を見ると、いずれの世代も「自治協や自治会の活動」を選択した人の比率が最も高くなっていますが、それに続く活動は世代により多様です。18～29 歳は「文化・スポーツ活動」が続いており、30～49 歳は「子ども会・育成会活動」が続いています。50～69 歳は「文化・スポーツ活動」が続いていますが、19.0%であり「自治協や自治会の活動」の 76.3%と大きな差があります。70 歳以上は「老人クラブ活動」が続いています。

居住年数別の傾向を見ると、年数が長い人は年齢も高い人が多いと考えられることから「自治協や自治会活動」や「老人クラブ活動」への参加率は高くなっており、加えて「文化・スポーツ活動」も居住年数が長いほど参加率が高くなっています。

経済的状況では、「自治協や自治会の活動」への参加は「ふつう」の人が最も高く、「ゆとりがある・ややゆとりがある」と答えた人が続いています。文化・スポーツ活動は、経済的に余裕がある人の方が高くなっています。

世帯構成でみると「一人暮らし」の方は、「自治協や自治会活動」への参加比率は他よりも低くなっていますが、「老人クラブ活動」や「高齢者支援活動」への参加は他の世帯構成よりも高くなっています。一人暮らし高齢者の支援にはこれらの活動を通じた支援が効果的と考えられます。

%		問27													
		n	自治協や自治会の活動	女性団体活動（女性部など）	老人クラブ活動	子ども会・育成会活動	P T A 活動	高齢者支援活動	文化・スポーツ活動	消防団活動	公民館活動	子育て支援活動	障がい者支援活動	環境保護活動	その他
全体		926	64.5	6.7	23.3	8.9	8.7	8.3	17.6	3.2	11.0	2.9	2.2	14.5	3.9
年齢4区分	18～29 歳	25	40.0	-	12.0	12.0	8.0	8.0	32.0	12.0	8.0	8.0	8.0	12.0	-
	30～49 歳	136	56.6	2.9	0.7	36.0	34.6	0.7	14.7	6.6	8.1	9.6	-	13.2	2.9
	50～69 歳	384	76.3	9.4	11.5	4.7	7.6	5.5	19.0	3.4	9.9	1.6	1.3	14.8	3.6
	70 歳以上	376	56.6	5.9	44.7	2.9	0.8	14.1	16.2	1.3	13.3	1.6	3.5	14.9	4.5
居住年数3区分	10年未満	63	57.1	7.9	7.9	15.9	12.7	3.2	12.7	6.3	6.3	17.5	-	7.9	4.8
	30年未満	217	64.5	5.1	9.2	14.3	16.1	8.8	16.1	2.8	10.6	1.8	2.8	17.5	4.1
	30年以上	643	65.3	7.0	29.5	6.4	5.9	8.7	18.7	3.0	11.7	1.9	2.2	14.2	3.6
経済的状況	ゆとりがある・ややゆとりがある	140	62.9	7.1	24.3	10.0	12.9	7.1	25.0	1.4	12.9	2.9	1.4	17.9	3.6
	ふつう	493	67.3	6.9	21.3	8.3	7.9	6.9	18.1	2.4	11.6	3.2	1.2	13.0	3.0
	苦しい・やや苦しい	287	61.0	6.3	25.8	9.4	8.4	11.5	13.6	5.6	9.4	2.4	4.2	15.7	5.2
世帯構成	3世代が同居（親と子と孫）	143	67.8	4.2	20.3	21.0	21.0	6.3	21.7	3.5	8.4	2.1	2.1	15.4	1.4
	2世代が同居（親と子）	372	65.9	6.2	17.7	12.4	12.1	7.0	17.2	4.3	10.8	4.3	2.7	14.5	3.5
	夫婦のみ	274	67.9	9.1	26.3	1.1	1.8	9.1	17.2	2.2	12.0	1.8	2.2	15.0	4.0
	一人暮らし	104	53.8	5.8	37.5	1.9	-	15.4	14.4	1.0	13.5	2.9	1.0	9.6	5.8
	その他	29	37.9	6.9	34.5	3.4	3.4	3.4	20.7	6.9	10.3	-	-	20.7	10.3

③NP0 活動、ボランティア活動への参加状況（問 29）の属性情報クロス集計

NP0 やボランティア活動への参加状況を年齢、居住年数、経済的状況、世帯構成でクロス集計をおこない、比較のため参加の程度により1～4点で採点し平均を算出しました。

全体では「現在参加したり、協力している」と答えた人は11.3%にとどまる一方、「まったく参加したことはなく、今後も参加したいと思わない」と答えた人は42.3%に上っており、参加者の拡大が課題となっています。

年齢別に見ると、50～69歳の点数が最も高く、30～49歳の点数が最も低くなっています。30～49歳は「まったく参加したことはなく、今後も参加したいと思わない」と答えた人が半数を超えており、現役労働・子育て世代にとってNP0 やボランティア活動への参加はハードルが高いことがうかがえます。

一方、18～29歳は「これまで参加・協力したいことはないが、今後参加するなど関わりを持ちたい」を選択した人の比率が45.0%と半数近くであり、未参加ながら参加に前向きな若い世代を活動に取り込むことが重要です。

また、「現在参加したり、協力している」と答えた人の比率は、経済的状況で、ゆとりがある・ややゆとりがあると答えた人が16.0%で最も高く、家族構成で3世代が同居している人が15.6%で続いており、経済的にゆとりがある人と、3世代同居の人が活動の核となっていることがうかがえます。一方、一人暮らしの人は、半数以上が「まったく参加したことはなく、今後も参加したいと思わない」と答えています。

%		問29					
		n	現在参加したり、協力している	今後参加するな・協力したことはないが、	参加前に参加しない・協力したことがあるが、現在	まったく参加したことはなく、今後も参加	採点結果
全体		1240	11.3	21.0	25.3	42.3	2.01
年齢4区分クロス項目	18～29 歳	60	1.7	45.0	8.3	45.0	2.03
	30～49歳	226	4.0	29.2	11.9	54.9	1.82
	50～69歳	499	13.8	26.3	20.8	39.1	2.15
	70歳以上	455	13.4	8.1	39.1	39.3	1.95
居住年数3区分	10年未満	125	5.6	31.2	12.8	50.4	1.92
	30年未満	324	6.8	26.5	16.0	50.6	1.89
	30年以上	794	13.9	17.4	31.1	37.7	2.08
経済的状況	ゆとりがある・ややゆとりがある	188	16.0	24.5	22.9	36.7	2.20
	ふつう	651	11.8	20.9	27.8	39.5	2.05
	苦しい・ややくるしい	402	8.2	20.1	22.6	49.0	1.87
世帯構成	3世代が同居（親と子と孫）	179	15.6	22.3	27.4	34.6	2.19
	2世代が同居（親と子）	523	9.6	23.3	21.0	46.1	1.96
	夫婦のみ	347	12.7	19.6	32.0	35.7	2.09
	一人暮らし	148	7.4	17.6	23.0	52.0	1.80
	その他	45	15.6	15.6	24.4	44.4	2.02

④参加する意向がない人の理由（問 32）の属性によるクロス集計

参加する意向がない人の理由について、年齢、居住年数、経済的状況、世帯構成でクロス集計をおこないました。

年齢別の傾向を見ると、18～29 歳は「交通費や必要経費が出るなら参加したい」を選んだ人の比率が最も高くなっていますが、「インターネットでなら参加したい」と答えた人も 23.3%いました。「時間や内容が合えば参加したい」と参加意向を示した人は 30～49 歳では 44.3%、50～69 歳では 53.4%と高いことから、忙しい現役・子育て世代でも参加できるように、時間や内容への配慮が必要と考えられます。

居住年数の傾向を見ると、年数が長いほど「時間や内容が合えば参加したい」「活動の情報やきっかけがあれば参加したい」と答えた人の比率が高くなっています。

世帯構成別の傾向を見ると、3 世代が同居、2 世代同居、夫婦のみのいずれの世帯も 4 割を超える人が「時間や内容が合えば参加したい」と答えています。

%		問32										
		n	特に要件はなく参加したい	時間や内容が合えば参加したい	自分の仕事や特技を活かせるなら参加したい	活動の情報やきっかけがあれば参加したい	交通費や必要経費が出るなら参加したい	家族や友人と一緒に参加したい	人に誘われたら参加したい	集団ではなく、自分のペースでできるなら参加したい	インターネットでなら参加したい	その他
全体		744	2.2	44.0	14.2	12.6	9.0	15.3	9.7	27.7	7.7	17.3
年齢4区分クロス項目	18～29 歳	30	3.3	30.0	13.3	6.7	33.3	26.7	13.3	30.0	23.3	3.3
	30～49歳	140	1.4	44.3	17.9	12.9	14.3	17.1	9.3	20.0	10.0	15.0
	50～69歳	277	1.8	53.4	15.5	13.7	9.0	16.2	9.7	34.7	7.9	7.2
	70歳以上	297	2.7	36.4	11.4	12.1	4.0	12.5	9.4	24.6	4.7	29.3
居住年数3区分	10年未満	73	1.4	38.4	17.8	6.8	13.7	15.1	12.3	23.3	9.6	11.0
	30年未満	193	1.6	40.4	14.0	12.4	14.0	18.1	8.3	32.6	11.4	14.5
	30年以上	479	2.5	46.1	13.8	13.6	6.3	14.4	10.0	26.1	5.8	19.4
経済的状況	ゆとりがある・ややゆとりがある	100	1.0	47.0	11.0	9.0	6.0	14.0	12.0	28.0	8.0	20.0
	ふつう	391	2.3	47.3	14.8	14.6	6.6	14.3	9.2	25.1	7.7	16.1
	苦しい・ややくるしい	252	2.4	36.5	14.7	11.1	13.9	17.9	9.9	31.3	7.5	18.3
世帯構成	3世代が同居（親と子と孫）	103	2.9	50.5	12.6	14.6	15.5	18.4	15.5	28.2	11.7	14.6
	2世代が同居（親と子）	320	1.6	44.7	15.9	10.6	9.4	15.9	9.4	26.3	8.1	14.4
	夫婦のみ	202	3.5	46.5	14.4	17.3	6.4	15.3	8.9	28.2	5.9	15.8
	一人暮らし	92	1.1	35.9	9.8	7.6	6.5	12.0	7.6	30.4	5.4	28.3
	その他	28	-	17.9	14.3	10.7	7.1	10.7	7.1	28.6	7.1	32.1

NPO やボランティア活動への参加意向がない人も、地域のつながりにより、参加しない理由が変わる可能性があるため、ご近所付き合いでクロス集計をおこないました。

地域との関係が強い人の方ほど、「時間や内容が合えば参加したい」と答えた人の比率が高くなっている一方、地域との関係が弱い人ほど「集団でなく、自分のペースでできるなら参加したい」「インターネットでなら参加したい」と答えた人の比率が高くなっています。

NPO やボランティア活動に参加することにより、地域との関係が改善する可能性があるため、ご近所付き合いが希薄な人の参加を促進できるような施策を検討することが必要です。

%		問32										
		N	特に要件はなく参加したい	時間や内容が合えば参加したい	自分の仕事や特技を活かせるなら参加したい	活動の情報やきっかけがあれば参加したい	交通費や必要経費が出るなら参加したい	家族や友人と一緒に参加したい	人に誘われたら参加したい	集団ではなく、自分のペースでできるなら参加したい	インターネットでなら参加したい	その他
問18	全体	727	2.2	43.9	14.3	12.5	9.1	15.4	9.9	27.8	7.6	17.5
	互いに相談したり、生活面で協力しあっている	162	2.5	46.3	17.3	15.4	3.7	15.4	10.5	18.5	3.7	21.6
	特に親しい人はなく、外で会えば世間話をする程度のつきあいをしている	308	2.3	44.8	14.9	14.3	8.4	18.2	9.7	27.9	6.8	16.6
	あいさつはするが、話をするほどのつきあいはしていない	207	1.4	44.9	12.6	9.7	12.6	12.6	9.7	32.4	10.1	15.9
	ほとんどあいさつもしない	31	3.2	25.8	3.2	3.2	16.1	9.7	9.7	32.3	16.1	19.4
	近所に誰がいるかも知らない	19	5.3	26.3	15.8	5.3	15.8	10.5	10.5	47.4	10.5	10.5

5. 今後の地域福祉政策

今後の地域福祉政策で優先すべき事項をたずねる問33を、年齢、居住年数、経済的状況、世帯構成でクロス集計をおこないました。

全体では「地域における災害時の体制整備」を選んだ人の比率が46.1%で最も高くなっています。

年齢別の傾向を見ると、18～29歳の若い世代では「福祉教育の充実」を他の年代に比べて重視する一方、「福祉に関する相談体制の充実」は低くなっています。30～49歳は「福祉教育の充実」と福祉サービスの質の向上に関心が高くなっています。50～69歳と70歳以上の高齢層は「福祉に関する相談体制の充実」が高くなっています。

居住年数による傾向を見ると、10年未満の居住者は「福祉教育の充実」と「地域福祉に関連する事業者の育成」を選択した人の比率が高くなっています。一方、30年以上の居住者は、「地域活動への参加の促進」と「福祉に関する相談体制の充実」を選択した人の比率が高くなっています。

経済的状況による傾向では、「苦しい・やや苦しい」と答えた人では、「福祉サービス（種類の充実）や「福祉に関する相談体制の充実」を選択肢した人の比率が高く、支援のニーズが高いことがうかがえます。一方、「ゆとりがある・ややゆとりがある」と答えた人は、「世代間の交流促進」や「地域福祉に関連する人材の育成」への関心が比較的高く、地域福祉の持続可能性を重視する傾向があります。

世帯構成による傾向では、3世帯同居世帯では、「地域福祉に関連する人材の育成」や「世代間交流の促進」を選択した人の比率が相対的に高く、多世代の視点を持った地域づくりへの関心が高いことがうかがえます。一方、一人暮らしの世帯では、「福祉サービスの質の向上」と「福祉に関する相談体制の充実」を選択した人の比率が高く、独居の不安や支援ニーズを示していると思われます。

%		問33								
		n	福祉教育の充実	地域における災害時の体制整備	地域福祉に関連する人材の育成	福祉サービス（種類の充実）	福祉サービスの質の向上	福祉に関する相談体制の充実	権利擁護事業の推進	関係機関の連携の推進
全体		1205	13.9	48.1	19.7	31.2	31.8	26.4	1.1	8.6
年齢4区分クロス の項目	18～29歳	56	26.8	41.1	14.3	33.9	26.8	10.7	1.8	14.3
	30～49歳	219	23.7	45.7	16.9	28.3	33.8	18.7	1.8	11.0
	50～69歳	486	10.3	48.8	21.4	33.3	29.0	30.5	1.2	8.2
	70歳以上	444	11.3	49.5	19.8	30.0	34.5	27.7	0.5	7.2
居住年数4区分	10年未満	117	20.5	46.2	17.1	32.5	31.6	22.2	1.7	6.0
	30年未満	312	19.6	47.1	17.3	30.8	31.4	23.1	1.0	10.6
	30年以上	779	10.4	48.8	20.9	31.2	32.1	28.5	1.0	8.2
経済的状況	ゆとりがある・ややゆとりがある	179	13.4	46.9	21.8	29.6	28.5	19.6	0.6	10.1
	ふつう	637	14.0	51.0	19.9	28.6	32.0	24.6	1.1	9.3
	苦しい・やや苦しい	386	13.5	43.5	17.4	36.8	33.4	32.1	1.3	6.7
世帯構成	3世代が同居（親と子と孫）	173	18.5	45.1	27.2	31.2	31.8	24.3	1.2	13.3
	2世代が同居（親と子）	507	15.8	47.9	16.8	30.6	32.1	24.5	1.4	8.7
	夫婦のみ	335	9.3	49.6	20.6	32.2	29.6	27.8	0.6	6.0
	一人暮らし	147	12.2	44.2	16.3	32.0	38.1	35.4	0.7	8.8
	その他	44	9.1	63.6	25.0	27.3	22.7	18.2	2.3	9.1

%		問33								
		n	情報提供体制の整備	ボランティアとの協働	NPOとの協働	福祉事業者との協働	福祉に関連する事業者の育成	地域活動への参加の促進	世代間交流の促進	その他
全体		1205	13.7	5.5	1.9	4.8	7.4	12.5	12.5	3.4
年齢4区分クロス の項目	18～29 歳	56	17.9	7.1	5.4	5.4	8.9	7.1	16.1	7.1
	30～49歳	219	13.7	6.4	1.4	2.7	7.3	8.2	14.2	4.1
	50～69歳	486	15.0	4.9	2.3	5.8	8.4	13.2	13.2	2.7
	70歳以上	444	11.7	5.4	1.4	4.7	6.1	14.6	10.6	3.4
居住年数4区分	10年未満	117	15.4	6.8	4.3	2.6	11.1	12.0	11.1	1.7
	30年未満	312	13.1	5.4	2.6	3.5	6.7	10.3	13.1	5.1
	30年以上	779	13.7	5.3	1.3	5.6	7.2	13.6	12.5	3.0
経済的状況	ゆとりがある・ややゆとりがある	179	16.8	5.0	3.4	5.0	5.6	10.6	15.6	3.4
	ふつう	637	14.1	5.7	2.2	5.2	7.8	13.8	11.1	2.8
	苦しい・やや苦しい	386	11.4	5.4	0.8	4.1	7.5	11.4	13.5	4.4
世帯構成	3世代が同居（親と子と孫）	173	14.5	7.5	3.5	6.9	11.6	12.7	16.8	2.3
	2世代が同居（親と子）	507	13.8	4.7	0.8	4.5	6.9	12.4	11.6	4.1
	夫婦のみ	335	14.6	6.0	2.7	5.1	6.0	13.7	12.8	3.0
	一人暮らし	147	10.9	3.4	2.0	2.7	8.2	10.9	10.9	2.7
	その他	44	13.6	9.1	2.3	4.5	6.8	11.4	9.1	4.5

6. 第4次地域福祉計画の課題整理について

第4次伊賀市地域福祉計画は、「ひとりひとりが支え合い つながりあいながら、いきいきと暮らせるまちづくり」のもと、重点施策として、4つの支え、4つの安心、6つの充実が設定されています。

以下では、重点施策毎にアンケート調査から見える課題を整理しました。

①4つの支え

高齢者福祉

- 高齢者福祉サービスの利用者でサービスについて「満足している」と答えた人が61.8%と半数以上を占めています。満足している人が評価している項目は、「サービスの質」が69.4%、「利用しやすい環境整備」が51.2%で続いており、サービスの質と利用環境については評価されています。
- 福祉課題を問う問11において、「高齢者の一人暮らしや高齢者のみ世帯に関する問題」を選択した人が全体で56.8%と半数を超えており、高齢者の問題は地域課題として全年代に浸透していると評価できます。また、「介護を要する高齢者の問題（8050問題など）」を選択した人は32.2%であり、介護をする人が直面している問題も地域課題として浸透しつつあると評価できます。

障がい者福祉

- 障がい者福祉サービスの利用者でサービスについて「満足している」と答えた人が57.4%と半数以上を占めています。満足している人が評価している項目は、「サービスの質」が81.3%と高い比率を示しています。一方、「利用料金」については37.5%にとどまっています。質については高い評価を得ていますが、利用料金や利用環境については改善が必要と考えられます。
- 問11で「障がい者に関する問題」を選択した人は8.8%で、非常に低くなっており、問24の地域で取り組むべき課題でも「障害のある人がいる世帯のこと」を選択した人は13.3%にとどまっています。障がい者福祉については、地域の課題としての認識が広まっていないと考えられます。

児童福祉

- 児童福祉の利用者でサービスについて「満足している」と答えた人は48.1%と半数近くに上ります。満足している人が評価している項目は、「サービスの質」が52.8%、「サービスを利用しやすい環境」が47.2%と、いずれも約半数の人が評価をしています。
- 児童福祉に関する課題認識は、「子育て家庭に関する問題（ヤングケアラーの問題など）」が7.6%、「一人親に関する問題」が8.5%、「ニートや不登校、引きこもり、非行等の年に関する青少年に関する問題」が9.6%といずれも低くなっています。年代別のクロス集計では、「子育て家庭に関する問題（ヤングケアラーの問題など）」を選んだ人の比率は18～29歳の23.3%と70歳以上の2.0%とでは大きな差があります。このように児童福祉の問題は関心が当事者世代にとどまっている傾向があり、地域の課題としての認識が広がっていないと考えられます。

生活困窮者支援

- 生活困窮者支援の利用者でサービスについて「満足している」と答えた人は 57.9%で半数を超えています。満足している人が評価している項目は、「サービスの質」と答えた人が 70.0%と非常に高い比率です。ただし、サンプル数が少ないため評価には注意が必要です。
- 問 11 の福祉課題で、「生活困窮に関する問題」を選択している人は 10.5%で高くありませんが、年代別クロス集計では 19～29 歳が 15.0%と他の年代よりも高くなっています。また、問 14 では、「経済的なこと（失業して収入がない、認知症等で財産管理ができない等）」を選択した人は全体では 20.1%ですが、年代別クロス集計では 19～29 歳が 37.3%と高くなっています。このように若い年代では生活困窮の問題への関心が高まっていると思われます。

福祉サービス全般について

- 安心安全で暮らすために必要なことを問う問 13 で「高齢者や障がい者、子育て支援などの福祉サービスが整っていること」を選択した人は 35.4%ですが、年代別クロス集計では、19～29 歳 43.1%であり、若い人ほど福祉サービスの整備を望む比率が高くなっています。
- 今後優先すべき地域福祉政策を問う問 33 では、「福祉サービスの質の向上」、「福祉サービスの充実」、「福祉に関する相談体制の充実」は、31.8%、31.2%、26.4%と、災害に次いで高い比率となっています。
- このように、福祉サービスの充実を望む声は、特に若い人で多くなっていますが、高齢化が進み社会福祉の負担が増加する中で、どのように福祉サービスの充実を図るか、自助・共助の意識をどのように高めていくかが課題となっています。

②4つの安心

住まい

- 暮らしの中での悩みや不安を問う問 14 で、「住環境に関すること（老朽化している、階段の上り下りが困難等）」を選択した人は 27.8%いて、災害に関する選択肢に次いで高くなっています。一方、問 13 の安心安全に暮らすために必要なことを問う設問では、「安心していつまでも暮らせるように、バリアフリーなど住環境が整い、住まいに対する支援が充実していること」を選択した人は 18.1%であり、医療サービスの充実、公共交通の整備などに比べると低くなっています。このように、住まいに関する課題は、地域として取り組む問題というよりは個人的として取り組むべきと受け止められていると推察されます。
- しかし、住環境は個人の生活の質に大きく影響し、地域の活力や安全性とも密接に関連しています。例えば、住宅のバリアフリー化が不十分な場合、高齢者の外出機会が減少することで地域活動への参加が制限され、地域コミュニティの衰退にもつながりかねません。したがって、住環境の整備は個人の課題という枠を超えて、地域全体で取り組むべき重要な政策課題として捉え直す必要があります。

地域医療

- 安心安全に暮らすために必要なことを問う問 13 では、「医療サービスが充実していること」を選択している人が 64.3%で最も高く、年代別にクロス集計をすると、すべての年代で6割を超えており、医療サービスの充実は安心安全のために最も重要な要素と広く認識されています。
- 調査では、この課題に対応した設問が他に設定されていないため、満足度や詳細なニーズなどを明らかにした上で、必要な施策を検討する必要があります。

健康づくり

- 健康づくり習慣について問う問 15 では、「定期的な健康診断」、「バランスの取れた食事」については、全体では 54.8%、50.0%と半数の人がおこなっていると答えています。しかし、年代別のクロス集計を見るといずれも若い年代ほど低く、定期的な健康診断は 18～29 歳では 29.3%、バランスの取れた食事は 32.8%にとどまっています。
- 一方、「ストレス管理（瞑想、趣味の時間など）」を選んだ人の比率は、30～49 歳が 37.9%で最も高く、18～29 歳が 36.2%で続いており、50～69 歳は 26.7%、70 歳以上は 19.3%と、高齢になるほど比率が低くなっています。ただし、若い世代の方が高くなっている要因として、若い人の方ほどストレスが溜まっている可能性があるため、メンタルヘルスも重要な課題になります。
- また、「健康づくりのイベントへの参加」は、最も比率の高い 70 歳以上でも 8.2%にとどまっています。
- 従って、若い年代の健康づくりへの意識の向上とともに、メンタルヘルスのケアや予防的な取り組みが重要な課題といえます。また、健康づくりイベントの低い参加率は、イベントの内容や実施時期、広報手段が各年代のニーズやライフスタイルに合っていない可能性を示唆しています。
-

くらし

- 安心安全で暮らすために必要なことを問う問 13 で、「公共交通が整備されており、高齢者や障がい者の移動が容易にできること」を選択した人は 47.0%と医療について高く、移動に不便を感じていない高齢者や障がい者以外でも地域課題として広く共有されていることがうかがえます。
- 一方、「図書館や文化ホール等の文化施設が整備され、市民の文化活動に対する支援が充実していること」と答えた人は 6.7%と低くなっており、また今後の地域福祉政策を問う問 33 で「権利擁護事業」を選択した人は 1.1%にとどまっており、これらの課題は広く共有されていません。
- 市民のくらしを向上させるために、多くの人が課題と認識している交通弱者の問題を解決するとともに、市民の文化活動の支援や権利擁護など、現時点では認知度や関心が低い施策についても、その重要性を丁寧に説明し理解を広げていく必要があります。

②6つの充実

みんなでつくる地域コミュニティ

- 安心安全に暮らすために必要なことを問う問 13 では、「地域でのつながりがあり、地域活動も活発で助け合いの習慣が根付いていること」を選択した人は 23.7%で、9 項目中 6 番目であり、ニーズは高くありません。
- 一方、具体的な手助けできることを問う問 21 では、「安否確認の声かけ」、「話し相手」、「買い物の手伝い」、「災害の手助け」では「手助けできると思う」と答えた人が半数を超えています。
- 地域で取り組むべき課題を問う問 24 で、「自治協や自治会の役員のなり手がいないこと」を選択した人が 33.2%、12 項目中 3 番目であり、自治会存続は地域課題としてある程度共有されています。一方、「住民同士のまとまりや助け合いが乏しいこと」を選択した人は 26.5%で、9 項目中 5 番目となっており、自治会存続への関心よりも低くなっています。
- 地域活動への参加を問う問 26 では、「進んで参加・協力している」と「機会があれば参加・協力している」と回答した人を合わせると、53.2%の人が参加し、活動に協力しています。参加している地域活動を問う問 27 では、「自治会や自治協への参加」が 64.5%で、地域活動の中では最も高くなっています。問 18 のご近所づきあいとクロス集計では、「互いに相談

したり、生活面で協力し合っている」人も、「あいさつはするが、話をするほどのつきあいはしていない」と答えた人も自治会への参加は 6 割程度で大きな差は無いため、自治会の参加がご近所付き合いを深めるきっかけにはなっていないことがうかがえます。

- NPO 活動やボランティアへの参加を問う問 29 では、「現在参加したり、協力している」と答えた人は 11.3%にとどまっていますが、「これまで参加・協力したことはないが、今後参加するなど関わりを持ちたい」と答えた人が 21.0%おり、未参加で意欲のある人を導くことが課題です。
- 今後は、地域のきづなの強化や地域活動の活性化を進めることが課題であり、ご近所づきあいが希薄な人も含め、多くが参加している自治会を活用することが重要となります。

つながりあえる地域作り

- 地域で取り組むべき課題を問う問 24 で、「暮らしや福祉について、相談できる人がいないこと」を選択した人は全体で 23.4%ですが、経済的に苦しい人は 28.5%、一人暮らしの人は 28.7%であり、全体よりも約 5 ポイント高くなっています。また近所づきあいを問う問 18 とのクロス集計を見ると、孤立しているとまでは言えない、「あいさつはするが、話をするほどのつきあいはしていない」と答えた人でも、31.7%が相談できる人がいない、と答えています。
- 孤立のない社会を実現するためには、誰もが気軽に相談できる体制づくりが重要です。特に経済的困難や一人暮らしの方々は、相談相手の不在という課題を抱えやすい傾向にあり、また日常的な近所付き合いが希薄な方々についても、同様の課題を抱えていることが明らかになっています。

安心と安全のまちづくり

- 今後の地域福祉政策で優先すべき事項を問う問 33 で、「地域における災害時の体制整備」をあげた人が 48.1%でもっと高く、また、暮らしの中での不安や悩みを問う問 14 では、「災害時の備えに関すること（自分や家族が万が一の時に一人では非難できない等）」を選択した人が 32.1%で、10 項目中で最も高く、安心と安全のまちづくりにおいて災害に対する対策は最優先項目の 1 つといえます。
- 一方、問 33 での「権利擁護事業の推進」(1.1%) や、安心して暮らすために必要なことを問う問 13 での「安心していつまでも暮らせるように、バリアフリーなどの住環境が整い、住まいに対する支援が充実していること」(18.1%) は低い割合にとどまっています。
- 今後、安心と安全のまちづくりを推進するためには、最優先課題である防災への備えを十分におこなうと共に、人権の問題や住環境の問題も啓発を含め広く推進していくことが必要です。

これからの人材を育成するしくみ作り

- 今後の地域福祉政策で優先すべき事項を問う問 33 で「地域活動への参加の促進」を選択した人は 12.5%にとどまっており、年齢別クロス集計を見ると若い人ほど比率は低くなっています。一方で、NPO 活動やボランティア活動への参加状況を問う問 29 では、「これまで参加・協力したことはないが、今後参加するなど関わりをもちたい」と答えた人の比率は若い人ほど高く、18～29 歳では 45.0%と半数近くになっています。
- NPO 活動やボランティアに参加する意向がない人に理由を問う問 32 では、「交通費や必要経費がでるなら参加したい」、「家族や友人と一緒に参加したい」、「インターネットでなら参加したい」と答えた人の比率が若い世代で高くなっていることから、活動の多様化、寛容化が若い世代を取り入れる重要な要素と考えられます。

いきづらさを抱えた人に寄り添う社会づくり

- 福祉課題を問う問 11 で、「ニートや不登校、引きこもり、非行等の青少年に関する問題」を選択した人は全体で 9.6%と低くなっています。しかし、問 18 の近所づきあいとのクロス集計では、「ほとんどあいさつもしない」人は 12.2%、「近所に誰がいるかも知らない」が 18.5%と、近所づきあいが薄い人の方が関心が高くなっています。
- いきづらさを抱えた人は地域で孤立しやすく、その結果、必要な支援を受けられないことが多いです。地域社会のつながりを強化し、支援の手を差し伸べることが重要です。